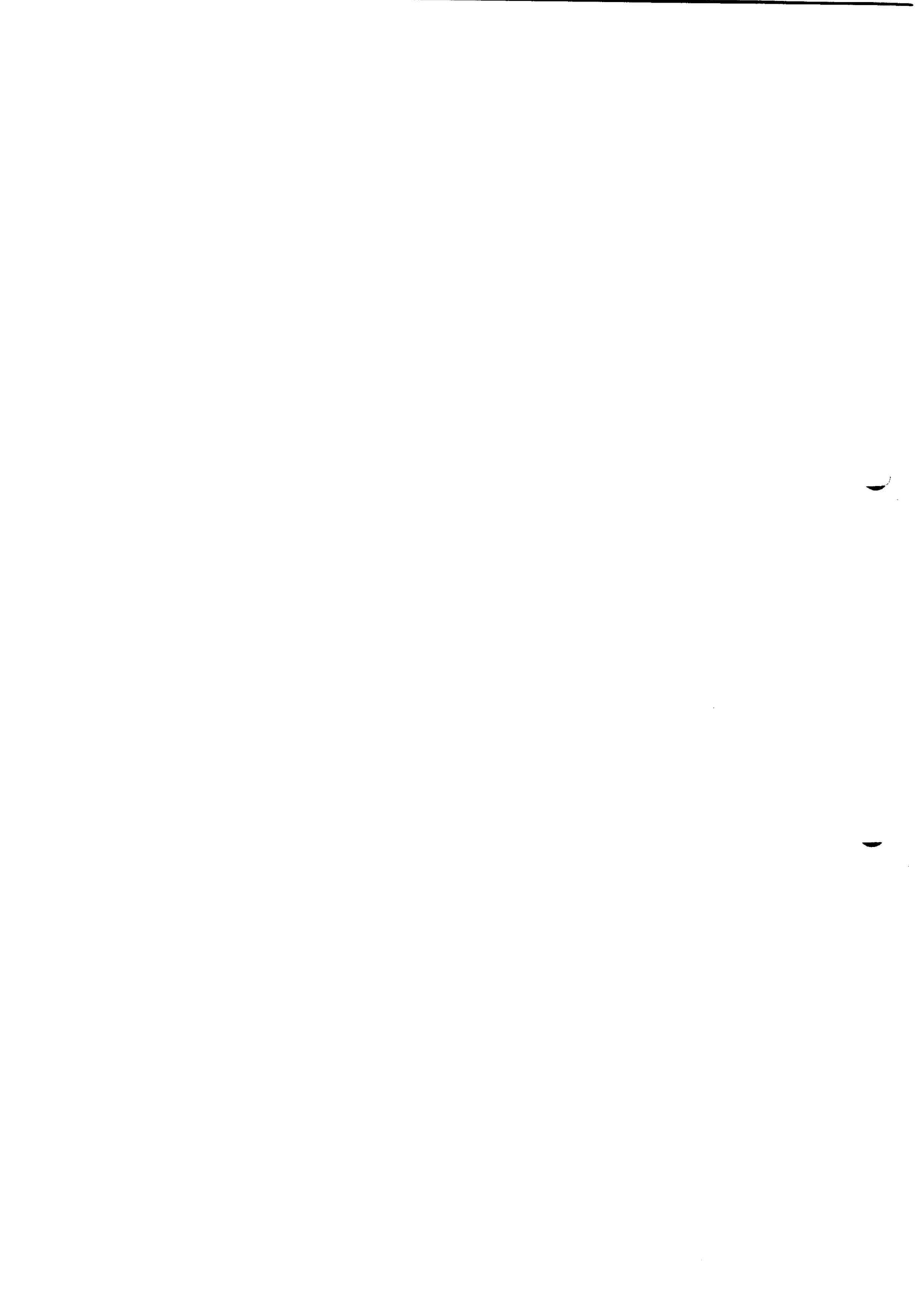


エンジン

エンジン調整.....	5-1
タイミング ベルト	5-19
シリンダ ヘッド脱着	5-29
エンジン脱着.....	5-37
エキゾースト パイプ/マフラ.....	5-49
ラジエータ.....	5-51

*エンジン単体の整備を行うにあたっては、下記のサービス マニュアルを参照してください。

資 料 名	資 料 No.
E07Aエンジン整備編	60P3600

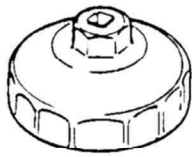


エンジン調整

専用工具	5-2
エンジン ルーム カバーの脱着	5-3
エキスパンション タンク キャップの点検	5-4
冷却水量の点検、補給	5-4
エンジン オイル量の点検、交換	5-5
オイル フィルタの交換	5-6
オイル プレッシャの測定	5-7
エア クリーナ エLEMENTの交換	5-8
スパーク プラグの清掃、ギャップの点検、調整	5-9
圧縮圧力の点検	5-10
各ベルトたわみ量の点検	5-10
A.C.G.ベルトのたわみ量の点検、調整	5-11
A/Cベルトのたわみ量の点検、調整	5-12
バルブ クリアランスの調整	5-13
アイドルリング回転数の点検、調整	5-15
CO、HC濃度の点検、調整	5-16
点火時期の点検、調整	5-17

専用工具

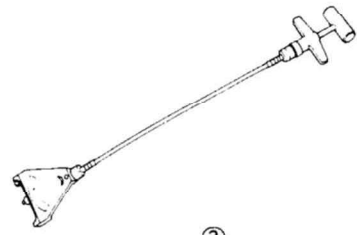
No.	工具番号	工具名称	備考
①	07HAA-PJ70100	オイル フィルタ レンチ	
②	07406-0030000	オイル プレッシュャ ゲージ アタッチメント	
③	07JGG-0010100	ベルト テンション ゲージ	
④	07JAA-PN40100	タベット レンチ	



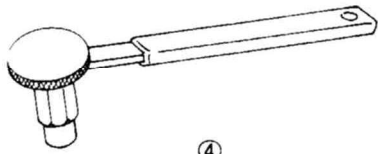
①



②



③



④

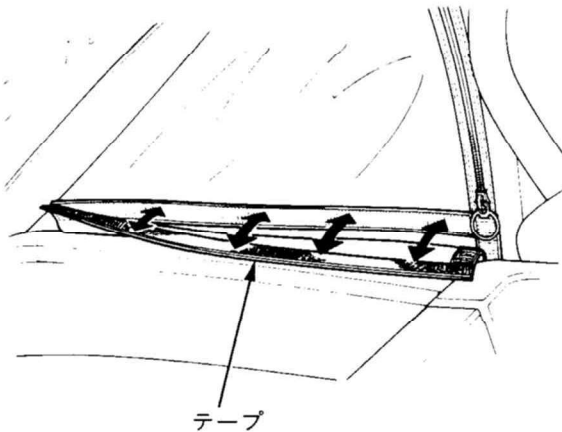
エンジン調整

エンジン ルーム カバーの脱着

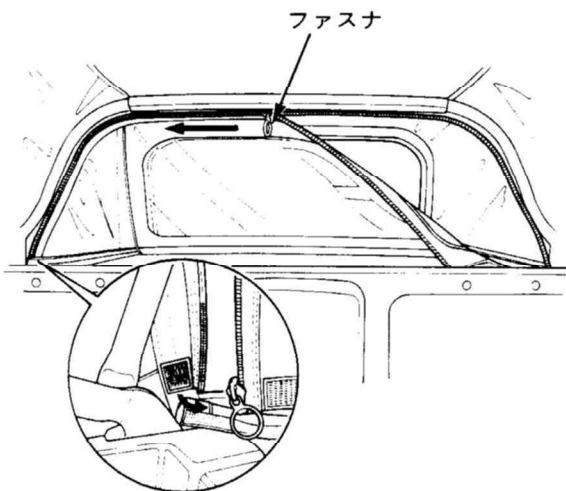
注意

- ・ソフト トップを開閉する場合は、作業前に14章のソフト トップ作業上の注意を参照する。
- ・リヤ フェンダ カバーを取付け、塗装面に傷をつけないようにする。
- ・このエンジン ルーム カバーを脱着方法は、エンジン点検、調整など軽作業のためのもので、エンジンやシリンダ ヘッドの脱着、またはタイミング ベルトの交換などの作業を伴う場合は、14章「R/L シート ベルト ベース」の脱着を参照する。

- ①ソフト トップを少し開け、ソフト トップ クロスにたるみを持たせる(14章参照)
- ②リヤ ウインド下部のテープを左右とも外す。

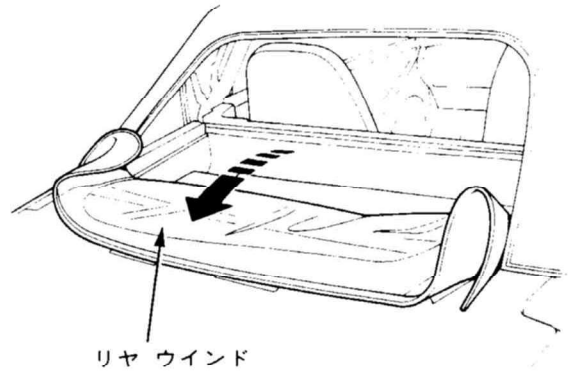


- ③リヤ ウインドのファスナを外す。

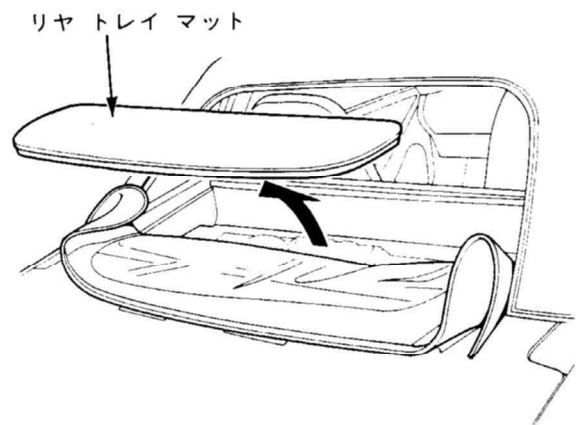


- ④リヤ ウインドをトランク側へ引出す。

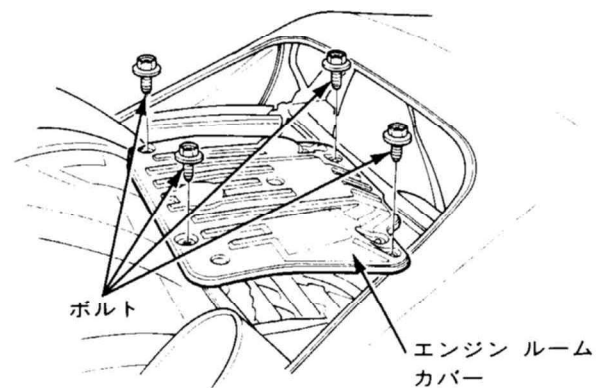
注意 リヤ ウインドやトランク上の汚れ(砂粒、異物など)を取除く。汚れているとリヤ ウインドを傷つける場合がある。



- ⑤リヤトレイからリヤトレイ マットを取外す。



- ⑥ボルト 4本を外し、エンジン ルーム カバーを取外す。



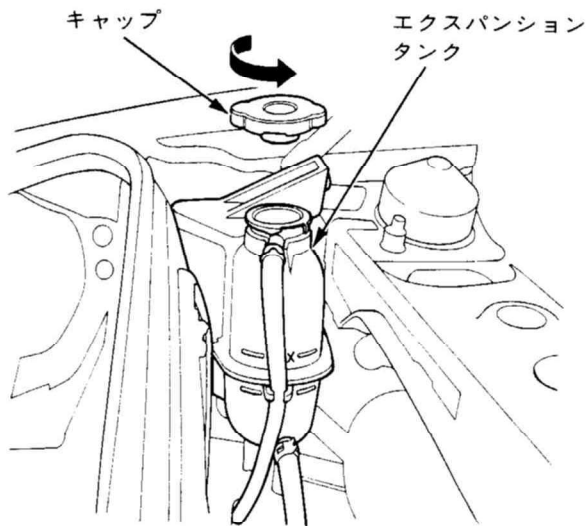
- ⑦取付けは取外しの逆手順で行う。

エンジン調整

エキスパンション タンク キャップの点検

注意 水温が高いときキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっているため冷却水が吹き出し危険である。水温が下がってから布切れなどでキャップを包み、静かに開ける。

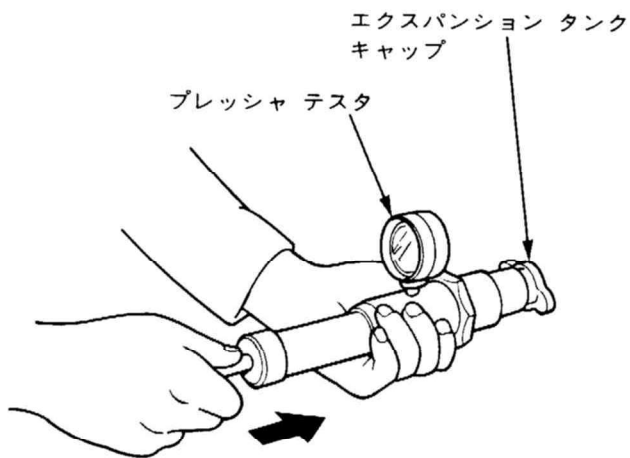
- ①トランクを開けエキスパンション タンク キャップを取外す。



- ②プレッシャ テスタにエキスパンション タンク キャップを取付け、ポンプ アップし、正規圧力(キャップ開弁圧)の範囲に約6秒間保てばよい。

注意 テスタにキャップを取付ける際はシール面によく水を塗っておくこと。

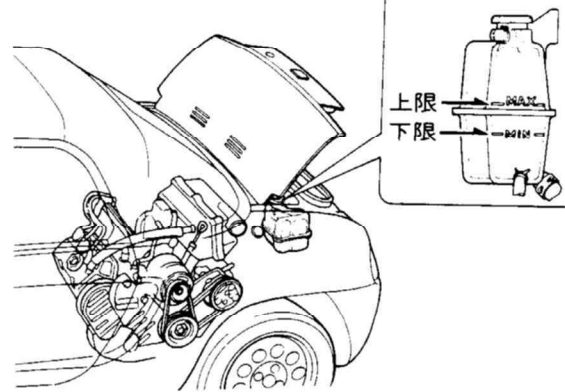
正規圧力 0.75—1.05kg-cm²



冷却水量の点検、補給

注意 冷却水を補給する際、リレー ボックスのふたを必ず閉める。また、電装品、塗装面に付着させないようにする。付着させた場合は速やかに拭き取ること。

- ①エキスパンション タンク内の冷却水量が上限(MAX)と下限(MIN)の間にあるかを点検する。



- ②下限(MIN)に近かったり不足していれば、指定液を上限(MIX)まで補充する。

指定液：ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液
濃度：50%

- ③交換は5—54頁を参照する。

規定量

(エキスパンション タンク0.7ℓを含む)

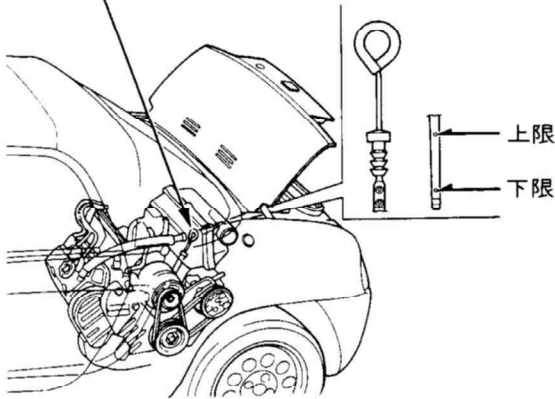
規定量 (エキスパンション タンク0.7ℓを含む)	4.7ℓ
指定液	“ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液”
ラジエータ液 規定濃度	50%

エンジン オイル量の点検、交換

点検

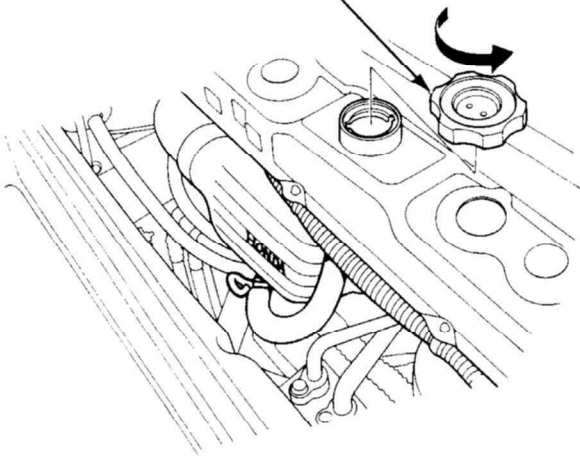
- ①エンジンを始動しない状態で水平の場所で行う。
- ②トランクを開ける。
- ③レベル ゲージを抜いて量、汚れを点検する。一度ウエスなどでふいた後しっかりとゲージを押し込んで点検する。
- ④下限の時は、上限まで補充する。

オイル レベル ゲージ
(オレンジ色)



注意 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質のオイルを使用しないこと。変質して故障の原因になることがある。

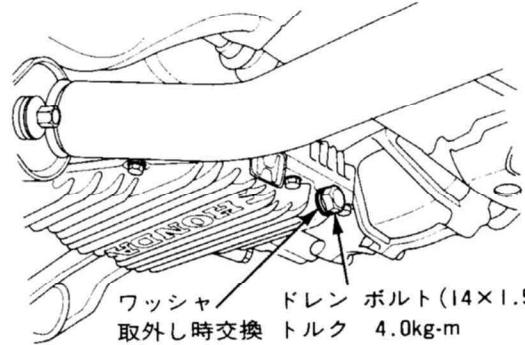
エンジン オイル
フィラ キャップ



交換

- ①エンジンを暖気する。暖気後エンジンを停止する。
- ②ドレン ボルトをゆるめ、エンジン オイルを抜く。

注意 エンジンが熱いうちにドレン ボルトをゆるめると、油温が高く火傷しやすいので注意する。

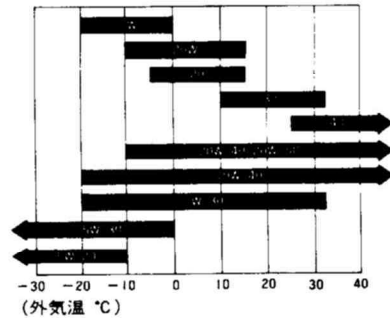


- ③新しいワッシャを取付け、ドレン ボルトを締付け、推奨オイルを入れる。

*****オイル交換時あるいはエンジン、シリンダ ヘッド脱着時には、シリンダ ヘッド カバーのオイル注入口からオイルを入れる。

推奨オイル	ホンダ純正オイル ウルトラU(4サイクル四輪車用API SE級)、またはホンダ純正オイル ウルトラGX(4サイクル四輪車用API SF級)
規定量	全容量3.0ℓ (分解整備時) 交換時2.7ℓ (オイル、フィルタ同時交換時) 2.5ℓ (オイル交換時)
交換時期	10,000kmごとまたは6カ月ごとのどちらか早い方

気温に応じた程度のもを下表にもとずき次回のオイル交換までを考慮して使用する。



●次の条件ではオイルの劣化が早まるので、早目に交換する。

- ・未舗装路での頻繁な走行・寒冷地での使用
- ・アイドリング状態での頻繁な使用
- ・短距離走行の繰返し・けん引車としての使用

エンジン調整

オイル フィルタの交換

交換時期 20,000kmごと

注意

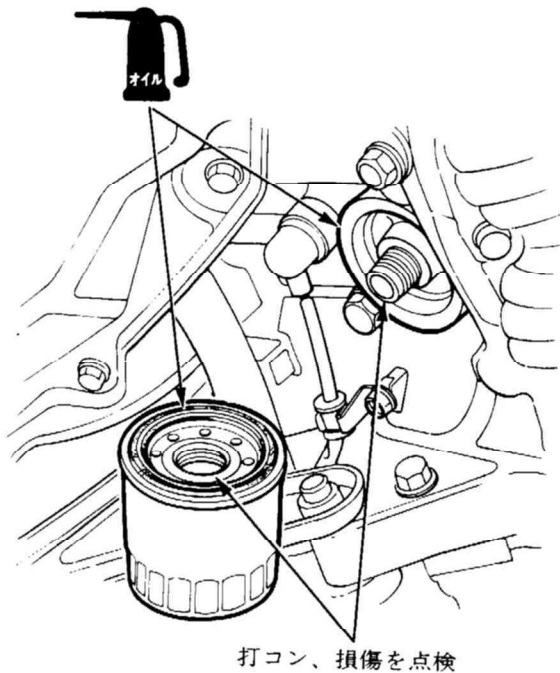
- ・ガレージ ジャッキ、リジッド ラックは所定の位置に確実にかける(1章参照)。
- ・安全確保のため、外したホイールをリジッド ラックの間に置く。

- ①オイル フィルタ ソケット (専用工具) でオイル フィルタを取外す。
- ②新品のオイル フィルタ パッキンにオイルを薄く塗布する。
★オイル フィルタ着座部およびネジ部の打痕、損傷を点検する。
- ③オイル フィルタを手でパッキンが着座するまで回転する。
- ④パッキン着座後オイル フィルタ ソケット (専用工具) を使用し規定回転角で増締めする。

規定回転角： $\frac{1}{2}$ 回転

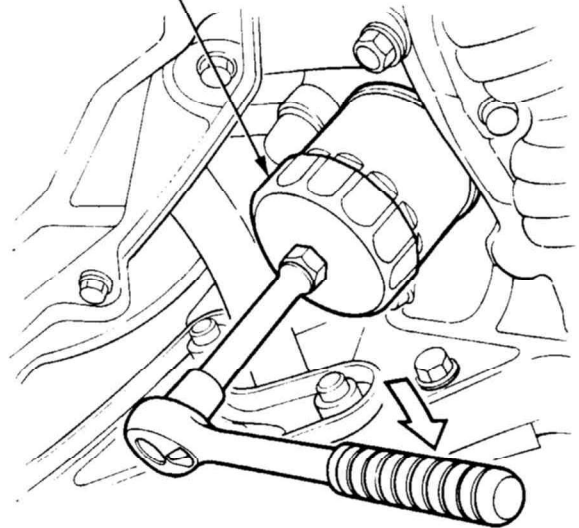
注意 オイル フィルタの取付けには必ず専用工具または、オイル フィルタ付属のキャップ工具を使用し、規定回転角で確実に作業を行う。

専用工具または、付属工具の使用および規定締め方法を行わない場合、エンジンにダメージ(オイル漏れ等のトラブル)を与える原因となることがある。



専用工具

オイル フィルタ レンチ
07HAA-PJ70100



・規定回転角の締め付け方法を5-7頁に記載。

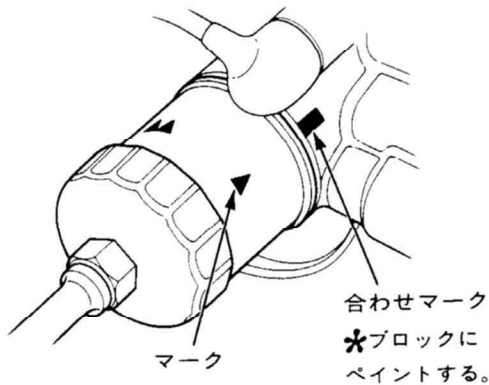
規定回転角の締付け方法

〈例〉

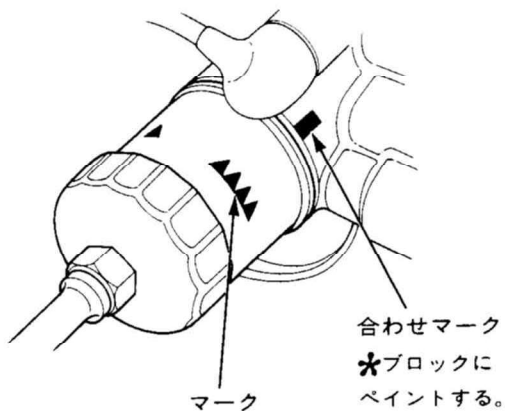
- ・オイル フィルタの周囲には、図のように円周を4等分した▲、▲▲、▲▲▲、▲▲▲▲のマークが印刷されている。
- ・パッキンが着座した時に下側に見えるマークの位置に合わせマークを付け、その位置より3つ分時計方向に回転し締付ける。

パッキン着座時のマーク	▲	▲▲	▲▲▲	▲▲▲▲
3/4回転締付け後のマーク	▲▲▲▲	▲	▲▲	▲▲▲

パッキン着座時のマーク位置



締付け完了時のマーク位置



- ⑤締付け後、エンジン オイルを規定量注入し、エンジンを3分間以上運転し、オイル漏れがないことを点検する。

オイル プレッシャの測定

*圧力計は一般市販のメータ（フル スケール7-10kg/cm²）でネジ部PT 1/8 19山/inを使用する。

- ①エンジン回転計を取付ける。
- ②オイル プレッシャ スイッチを外し、圧力計を取付ける。
- ③ラジエータ ファンが2回作動するまで、エンジンをかけておく。
- ④ラジエータ ファンが2回作動したら、油圧を測定する。

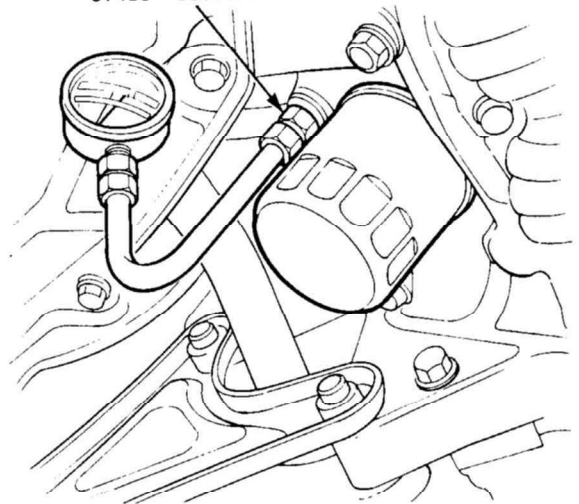
油圧(暖機完了後、油温80°C時)

アイドリング時：0.7kg/cm²以上

3,000rpm時：3.5kg/cm²以上

専用工具

オイル プレッシャ ゲージ
アタッチメント
07406-0030000



- ⑤オイル プレッシャ スイッチのネジ部のフランジ側半分にホンダ純正液体パッキン1216を塗布して取付ける。

トルク1.8kg-m

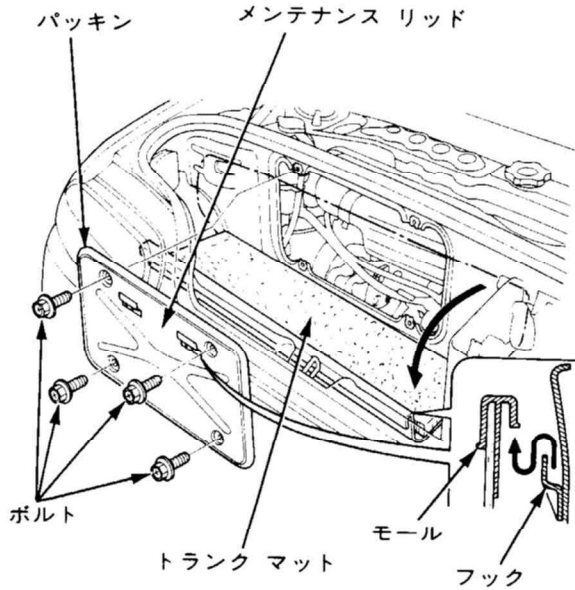
エンジン調整

エア クリーナ エLEMENTの交換

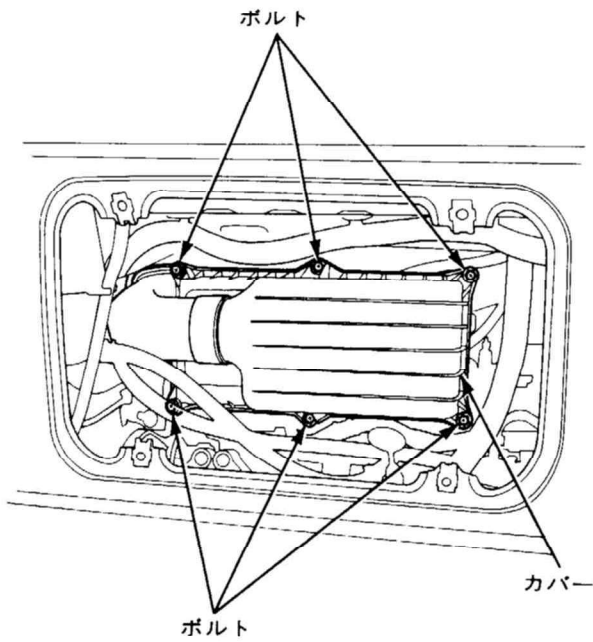
推奨交換時期	40,000kmごと
--------	------------

★ほこりの多い地区では早めに交換する。

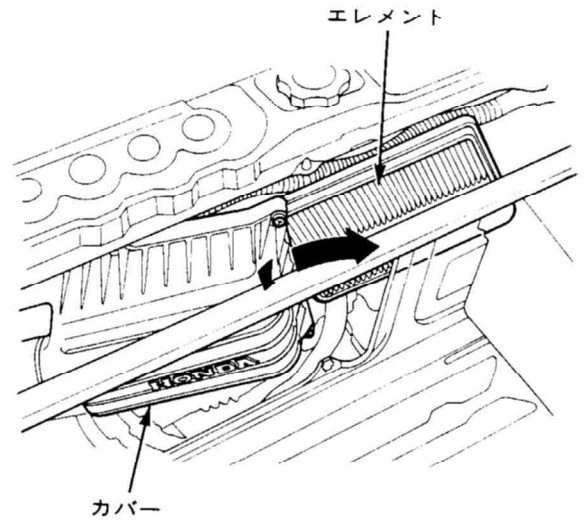
- ①トランクを開けステイを確実にかけ固定する。
- ②トランク マットのモールをフックから外し、ボルト4本をゆるめてメンテナンス リッドを取外す。



- ③ボルト 6本をゆるめてカバーを取外す。



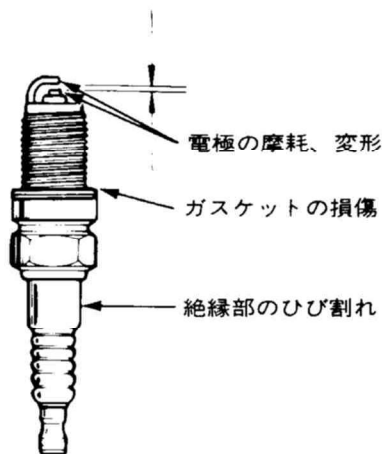
- ④ELEMENTを、ケースから取出す。



- ⑤ELEMENTを交換し、カバーを元の位置に取付け、ボルトで確実に固定する。
- ⑥メンテナンス リッドをパッキンが外れないように取付ける。
- ⑦トランク マットを元に戻す。

スパークプラグの清掃、ギャップの点検、調整

- ①エンジンルームカバーを外す(5-3頁)。
- ②スパークプラグを外す。
- ③スパークプラグについて下記の項目を点検し、必要ならば修正または新品に交換する。
 - ・電極のすき間
 - ・電極部の汚れ
 - ・堆積物の有無
 - ・中心電極の絶縁部のひび割れ



- ④スパークプラグが焼け過ぎの場合は、下記の原因が考えられる。
 - ・混合ガスのうす過ぎ
 - ・点火時期の進み過ぎ
 - ・プラグ熱価の低すぎ
 - ・冷却の不十分
 - ・プラグの締付け不良
- ⑤スパークプラグがカーボンで真黒にくすぶる場合は、下記の原因が考えられる。
 - ・長いアイドル、低速運転
 - ・混合ガスの濃すぎ
 - ・点火時期の遅れ
 - ・エアクリーナーの目づまり
 - ・イグニッションコイル、ラジオノイズコンデンサ、イグニッションセンタコード、ハイテンションコードの劣化
 - ・ピストンリング、バルブガイドの摩耗
 - ・電極のすき間の不良
 - ・プラグ熱価の高すぎ

- ⑥電極部に堆積物や汚れのある場合は、プラグクリーナーで清掃する。

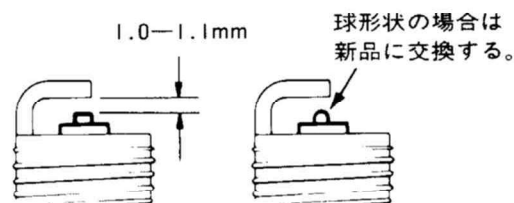
注意 プラグクリーナーを使用した場合は、砂を確実に除去すること。

- ⑦中心電極が図のように球形状になっている場合は、新品に交換する。

注意 ISO(国際標準化機構)規格品を使用しているため、指定以外のプラグを使用しないこと。

★のマークにて表示。
スパークプラグの型式

NGK	ND
BKR6E-11(標準)	K20PR-U11(標準)
BKR7E-11	K22PR-U11



- ⑧電極のすき間を測定し、基準値以外の場合は、プラグゲージを用いて調整する。

電極のすき間

基準値：1.0-1.1mm

- ⑨スパークプラグを取付ける場合は、プラグをプラグレンチに取付けてプラグ座面に当るまで手で仮締めし、プラグレンチハンドルで確実に締付ける。

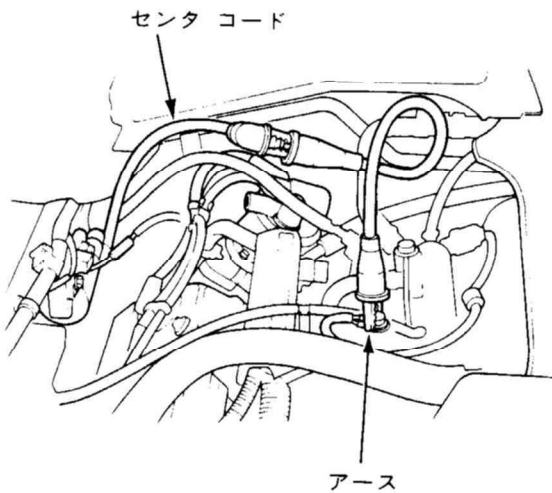
トルク 1.5kg-m

エンジン調整

圧縮圧力の点検

★点検はエンジンが十分に暖まるまで暖機運転（ラジエータファン2回作動前後）してから行う。

- ①エンジン ルーム カバーを外す(5-3頁)。
- ②フューエル ポンプの10Aヒューズを外し、フューエルポンプの作動を止める。
- ③ディストリビュータのセンタ コードを外して、図のようにアースさせる。



- ④スパーク プラグ3本を外す。
 - ⑤プラグ穴にコンプレッション ゲージのアタッチメントをそう入する。
- ★測定は1シリンダごとに行う。
- ⑥スロットルを全開にして、スタータ モータでエンジンを回し圧縮圧力を測定する。

圧縮圧力

標準値：14.0kg/cm²—250rpm

限度値：9.5kg/cm²—250rpm

注意 完全充電されたバッテリーを使用し、できるだけ短時間で測定を行う。

- ⑦残りのシリンダについても測定する。

各シリンダ間差 2.0kg/cm²以内

圧縮圧力が低い場合は次の項目を点検する。

- ・バルブの圧縮漏れ
- ・シリンダ ヘッド ガスケットの破損
- ・ピストン リングの摩耗
- ・ピストン、シリンダの摩耗

圧縮圧力が高い場合は、次の項目を点検する。

- ・ピストン ヘッド、シリンダ ヘッドのカーボン堆積

各ベルトのたわみ量の点検

★A.C.G.ベルトの基準値は点検時の値で新品交換時は初期張り後、約5分間エンジンを運転し、基準値であることを再確認する。

・A/Cベルトを新品に交換した場合は、たわみ量または張力を新品時の値に調整し、エンジンを5分間運転した後、再度点検時(基準値)に調整する。

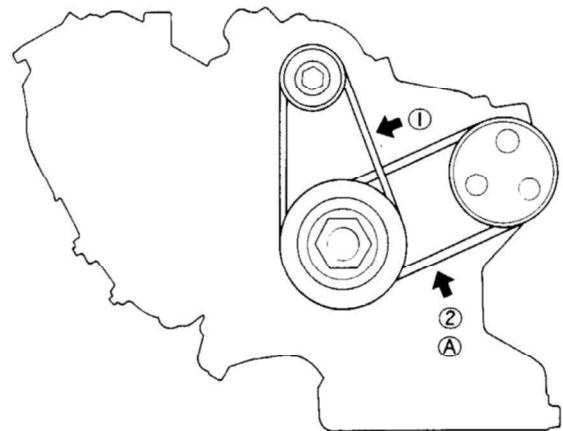
各ベルトのたわみ量(約10kg荷重時)

	点検時	新品時
①A.C.G.ベルト	6.5—8.0mm (基準値)	—
②A/Cベルト	6.5—8.0mm (基準値)	4.5—5.5mm

ベルト テンション ケージによるA/Cベルトの張力

	点検時	新品時
④A/Cベルト	32—45kg (基準値)	55—70kg

★A.C.G.ベルトはスプリングはスプリング テンション方式によって調整する。ベルト テンション ケージによる点検は行わない。



A.C.G.ベルトのたわみ量の点検、調整

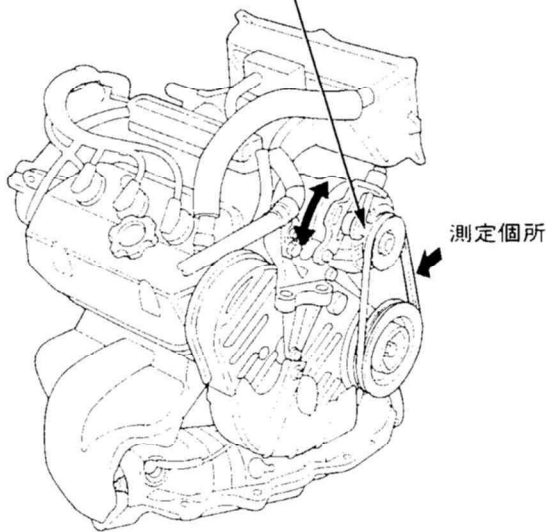
★基準値は点検時の値で、新品交換時は初期張り調整後、約5分間エンジンを運転させ、再度点検し、基準値であることを確認する。

- ①エンジン ルーム カバーを取外す(5-3頁)。
- ②エアー フロー チューブをASSYで取外す。
- ③A.C.G.ベルトの張りを点検する。

たわみ量 基準値：6.5—8.0mm(点検時)

・図のようにプーリ間の中央を約10kgの力で押した時のベルトのたわみ量を測定する。

A.C.G.アジャスト ロック ボルト



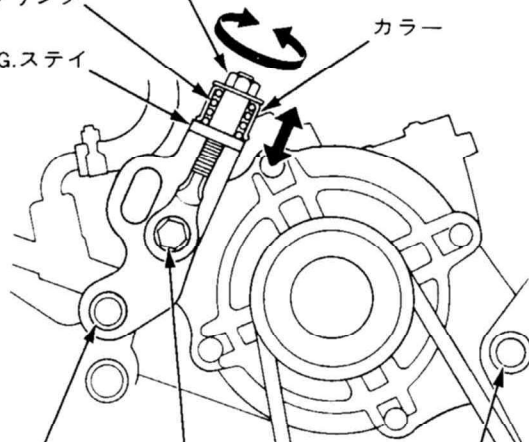
- ④基準値以外の場合は調整を行う。

A.C.G.アジャスト ナット
トルク 0.7kg-m

アジャスト
スプリング

A.C.G.ステイ

カラー



A.C.G.アジャスト
ロック ボルト
トルク 2.5kg-m

A.C.G.ステイ取付けボルト
トルク 2.5kg-m

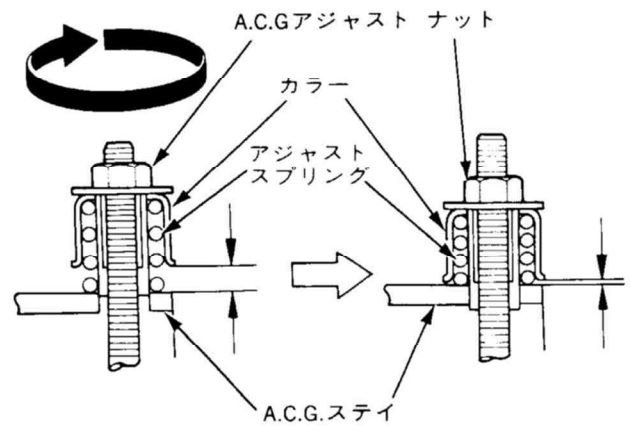
A.C.G.ピボット側取付けボルト
トルク 4.5kg-m

注意 A.C.G.ベルトはスプリング テンション方式による調整方法を採用しているため、ベルト テンション ゲージによる点検は行わない。

- ⑤A.C.G.ピボット側取付けボルト、A.C.G.ステイ取付けボルト、A.C.G.アジャスト ロック ボルトを約1/4回転(90°)程ゆるめる。

★ゆるめすぎると正確な調整ができないので注意すること。

- ⑥A.C.G.アジャスト ナットを締め込み、下図のようにカラー下端面とステイのシート面とのすきまが基準値になるように調整する。



すき間 基準値：1.0mm

- ⑦A.C.G.アジャスト ロック ボルト、A.C.G.ステイ取付けボルト、A.C.G.ピボット側取付けボルトの順に各規定トルクで締め付ける。

- ⑧すき間を再度確認する(基準値外の場合は再調整を行う)。

- ⑨A.C.G.アジャスト ナットを規定トルクで締め付ける。

★A.C.G.アジャスト ナットを締めることでカラーとステイとのすき間をなくす(アジャスト ナットのゆるみを防止)。

トルク 0.7kg-m

- ⑩ベルトの張りを再確認する。

エンジン調整

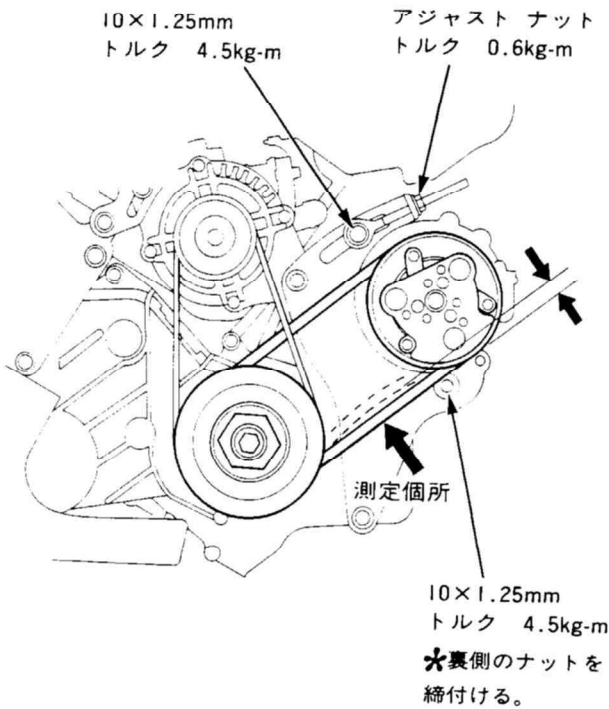
A/Cベルトのたわみ量の点検

- ✳ 点検はスプラッシュ シールドを取外して行う。
- ・新品ベルトに交換した場合は、たわみ量または張力を初めに新品時の値に調整し、エンジンを5分間運転した後、再度、点検時の基準値に調整する。

①A/Cベルトの張りを点検する。

たわみ量：6.5—8.0mm(点検時/基準値)
4.5—5.5mm(新品時)

- ・図のようにプーリ間の中央を約10kgの力で押した時のベルトのたわみ量を点検する。



ベルト テンション ゲージによる点検方法

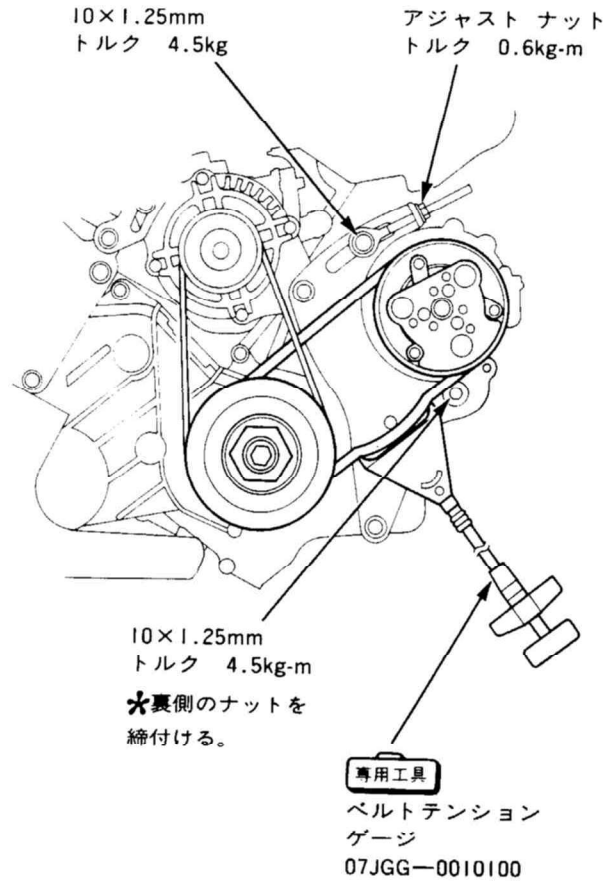
張力：32—45kg(点検時/基準値)
55—70kg(新品時)

- ・図のようにベルト テンション ゲージを取付け、張力を測定する。

✳ゲージの使用方法は、取扱説明書を参照すること。

②基準値以外の場合はA/Cコンプレッサの取付けナットと取付けボルトをゆるめ、上端のアジャスト ボルトで調整する。

③A/Cの取付けナットと取付けボルトを確実に締付け、ベルトの張りを再確認する。



バルブ クリアランスの調整

注意 クランクシャフト プーリ ボルトは、右ネジである。点検時は、プーリ ボルトを利用して、反時計回転させるためゆるむことがある。最後にボルトをトルクレンチを使用して規定トルクで締付ける。

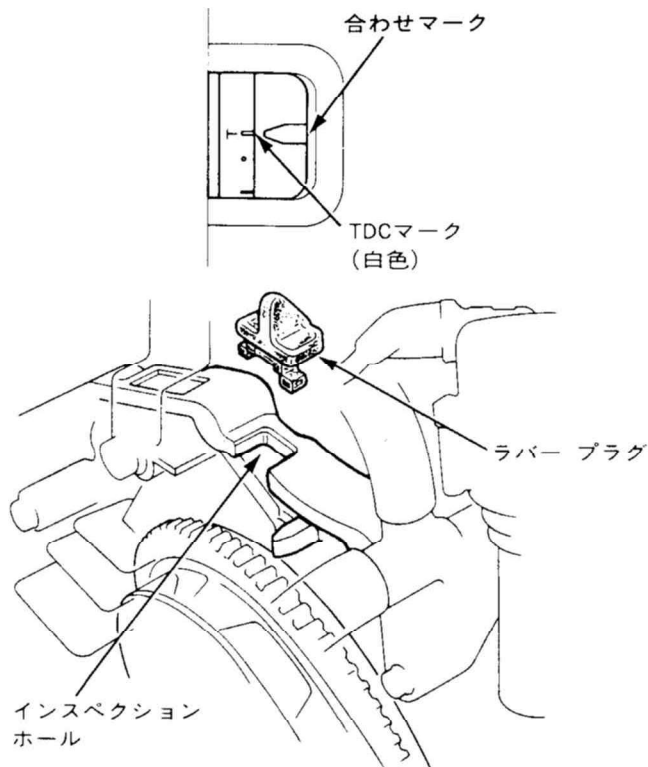
12×1.25mm

トルク 11.5kg-m

★調整は常温（油温10°C～40°C）で行う。

①クランクシャフトを回わして、No.1シリンダの圧縮上死点に合わせる。

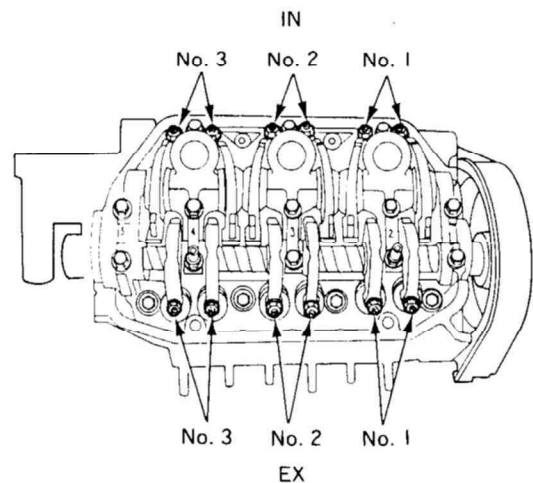
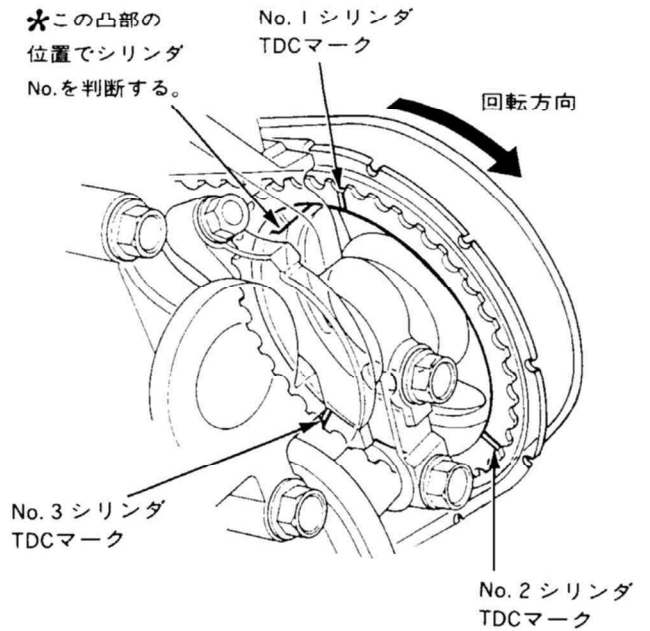
No.1シリンダ圧縮上死点時のクランクシャフト位置



②シリンダヘッドカバーを取外す。

③No.1シリンダが圧縮上死点にあることを確認する。

★カムプーリを裏側から見て、No.1シリンダのTDCマークが、シリンダヘッドの上端面と合うこと。



エンジン調整

バルブ クリアランスの調整

④図のように専用工具を取付けて、ロッカ アーム アジャスト スクリュのロックナットをゆるめ、アジャスト スクリュを回して調整する。

＊アジャスト ナットの座面とロッカ アーム接触面には、エンジン オイルを塗布する。

・調整はNo. 1、No. 3、No. 2シリンダの順に行う。

注意 アルミ ロッカ アームのため、締め過ぎ(オーバートルク)厳禁。

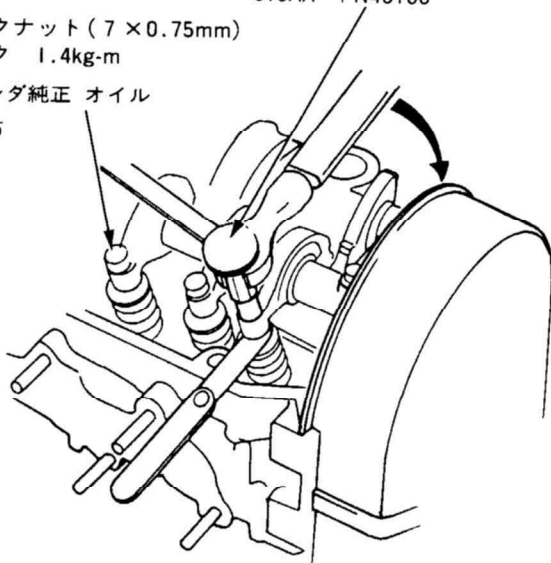
ロックナット
7×0.75mm
トルク1.4kg-m

INクリアランス (冷間)
標準値 0.13—0.17mm
EXクリアランス (冷間)
標準値 0.23—0.27mm

専用工具
タベット アジャスト レンチ
07JAA—PN40100

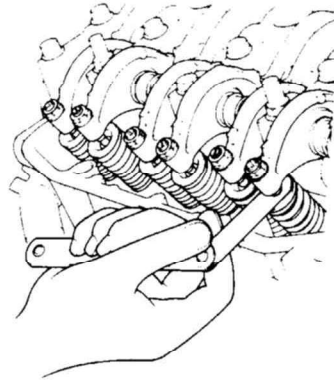
ロックナット(7×0.75mm)
トルク 1.4kg-m

＊ホンダ純正 オイル
を塗布



⑤ロックナットを締め付け、再度シクネス ゲージでクリアランスを測定する。

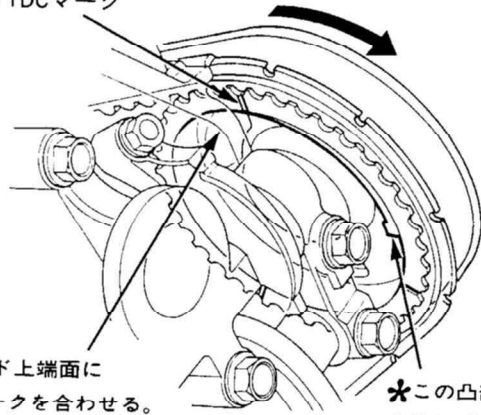
注意 ロックナットの締め付けには必ずトルク レンチを使用する。



⑥各シリンダの圧縮上死点で、INバルブ、EXバルブのクリアランス調整を行う。

＊No. 1シリンダ圧縮上死点の位置から、クランクシャフトを反時計方向に240°(カムプリーで120°)回した位置がNo. 3シリンダの圧縮上死点位置。

No. 3 TDCマーク

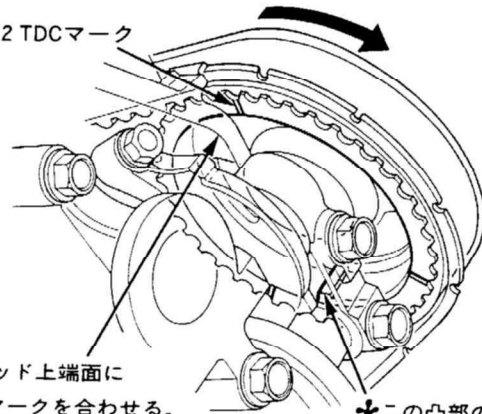


＊ヘッド上端面に
TDCマークを合わせる。

＊この凸部の位置
シリンダNo.を判
断する。

＊No. 3シリンダ圧縮上死点の位置から、クランクシャフトを反時計方向に240°(カムプリーで120°)回した位置がNo. 2シリンダの圧縮上死点位置。

No. 2 TDCマーク



＊ヘッド上端面に
TDCマークを合わせる。

＊この凸部の位置で
シリンダNo.を判断する。

アイドリング回転数の点検、調整

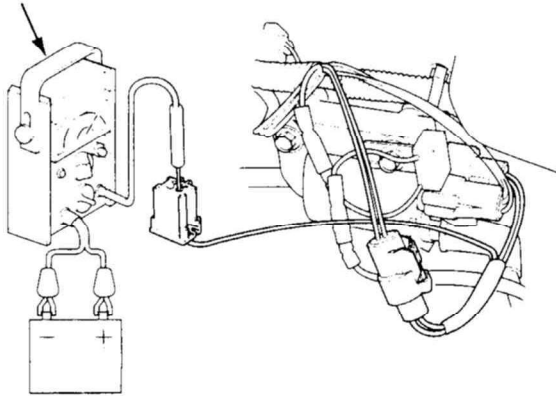
注意 アイドリングの調整は、アイドル アジャスト スクリューで行い、スロットル ストップ スクリューでは絶対に行わないこと。

*****点検、調整を行う前に下記のチェックを行う。

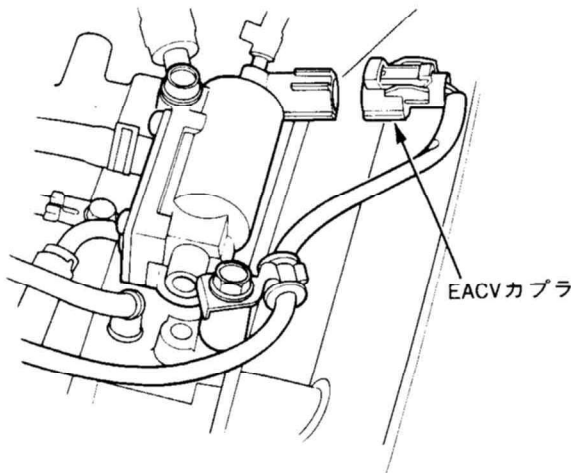
- ・エンジンが十分に暖機されていること。(ラジエータ ファンが2回作動すること。)
- ・エア クリーナ エレメントの状態、点火時期、スパーク プラグの電極の状態、ブローバイ ガス環元装置の機能が正規であること。
- ・コントロール ユニットの自己診断ランプが点滅していないこと。

① 3気筒または6気筒用のエンジン回転計を取付ける (6気筒用の回転計の場合は表示回転数の2倍とする)。

エンジン回転数



② EACVのカプラの接続を外す。

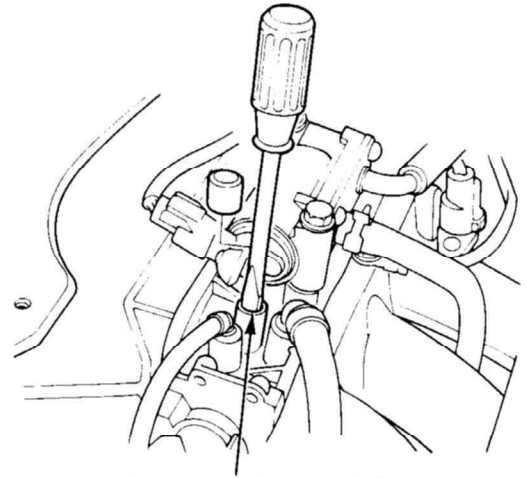


③ ヘッドライト、ヒータ ファン、ラジエータ ファン、A/C等が作動していない無負荷状態で点検を行う。

アイドリング回転数 (無負荷)

850 ± 50rpm

● 基準値を外れる場合は、スロットル ボディのアイドル アジャスト スクリューで調整を行う。



アイドル アジャスト スクリュー

- ④ EACVのカプラを接続し、ECUヒューズを10秒間以上外し、ECUのメモリをリセットする。
- ⑤ ヘッドライト、ヒータ ファン、ラジエータ ファン、A/C等が作動しない無負荷状態で1分以上経過後点検を行う。

アイドリング回転数(無負荷)

1,200 ± 50rpm

⑥ ヘッド ライトON(ハイビーム)状態で1分以上経過後アイドリング回転数を点検する。

アイドリング回転数

1,200rpm ± 50rpm

⑦ A/CスイッチをONにし、コンプレッサが作動した状態で1分以上経過後点検する。

アイドリング回転数

1,200rpm ± 50rpm

*****規定のアイドリング回転数が維持できない場合は、アイドル コントロール システムの点検を行う(6-43頁)。

エンジン調整

— CO、HC濃度の点検 —

★ 測定は通風の良い直接風雨にさらされない場所で行うこと。

- ・ 一酸化炭素濃度(CO%)、炭化水素濃度(HCppm)測定はアイドリング回転数(無負荷)で行う(5-15頁)。
- ・ エンジン回転計は精密回転計を用いて確認する。
- ・ 測定前に次の項目について点検調整済であること。
 1. エア クリーナ エレメントの状態
 2. 点火時期の機能
 3. スパーク プラグ電極の状態
 4. ブローバイ ガス還元装置の機能

① エンジンを始動し、ラジエータ ファンが2回作動後さらに、エンジン回転3,000rpm(無負荷)で約2分以上暖機運転する。

② 分析計のプロープが600mm以上入る様に、テールパイプに耐熱性の延長管を取付ける。

③ 規定のアイドリング回転数であることを確認し、一酸化炭素濃度(CO%)および炭化水素濃度(HCppm)を分析計を用いて測定し基準値内であるか点検する。

アイドリング時CO濃度 0.5%以下

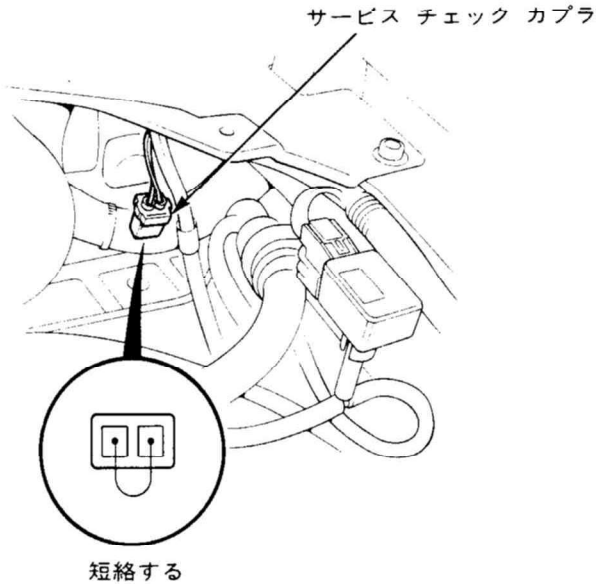
アイドリング時HC濃度 200ppm以下

④ 基準値より外れている場合は、触媒コンバータ及びECU(6-16頁)の点検を行う。

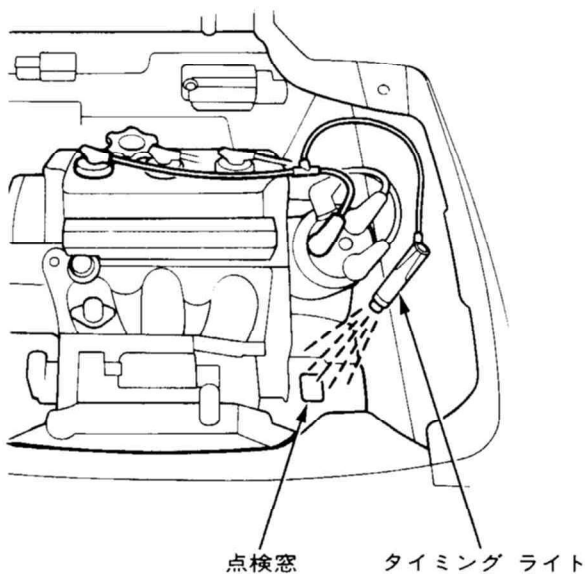
点火時期の点検、調整

★点検はエンジンが十分暖まるまで暖機運転(ラジエータ ファン2回作動後)してから行うこと。

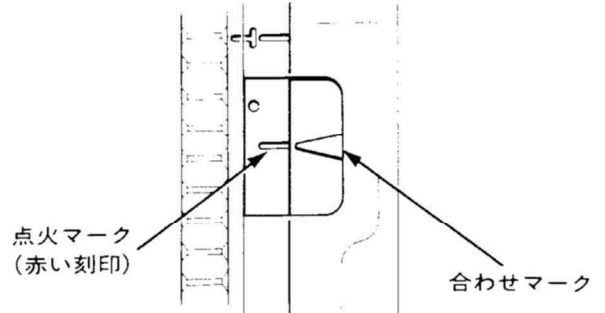
- ①エンジン メンテナンス リッドを取外し、サービス チェック カブラの茶と茶/黒端子を短絡する。



- ②タイミング ライトを一番シリンダのハイテンション コードに取付け、ミッション ケースの点検窓からラバー キャップを外す。



- ③エンジンを始動し、点検窓からフライホイールにタイミングライトを向け、アイドル回転時に合わせマークと点火マーク(赤い刻印)が合うことを点検する。



点火時期(アイドル回転時)

20°BTDC(赤い刻印)/1200rpm(ニュートラル)

- ④必要ならばディストリビュータ取付けボルトをゆるめ、ディストリビュータハウジングをまわして点火時期を調整する。



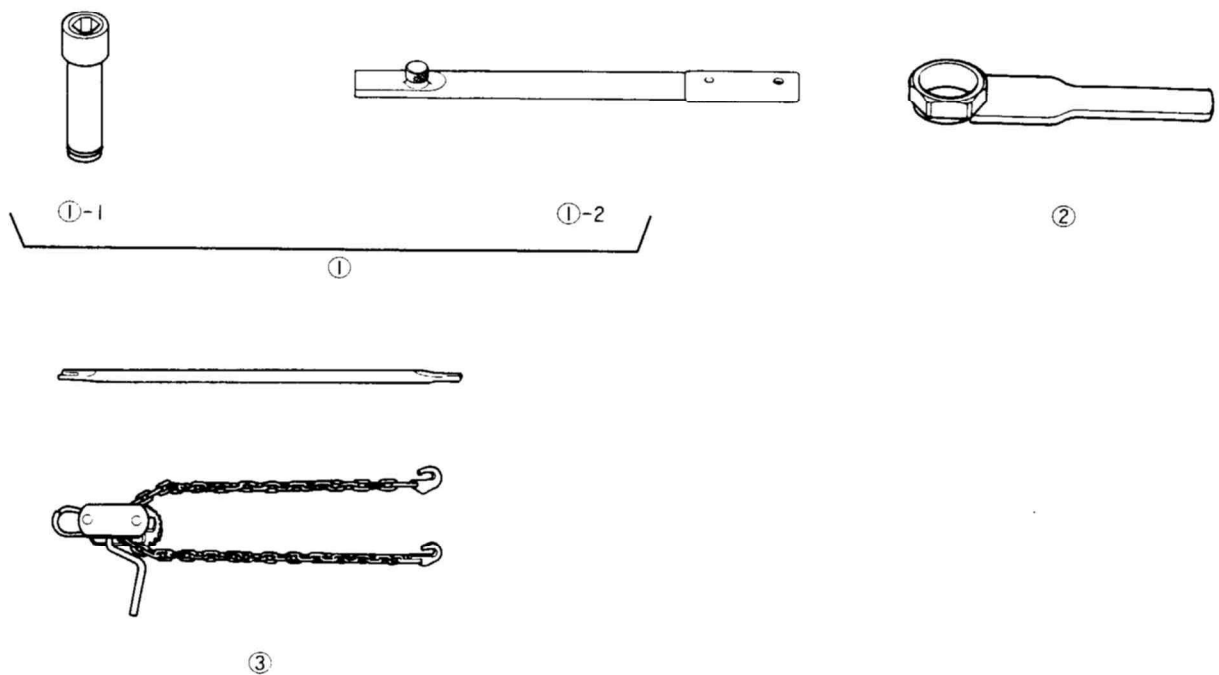
- ⑤ディストリビュータ取付けボルトを確実に締付け、アイドル回転数と点火時期を再確認する。
★サービス チェック カブラの短絡は調整後必ず外すこと。
- ⑥エンジン回転数をあげ点火時期が進角することを確認する。
★点検後、点検窓にラバー キャップを取付けること。

タイミング ベルト

専用工具	5-20
展開図	5-21
点検	5-22
張り調整	5-22
交換	5-23
バルブ タイミング合わせ	5-26
シリンダ判別センサ交換	5-27

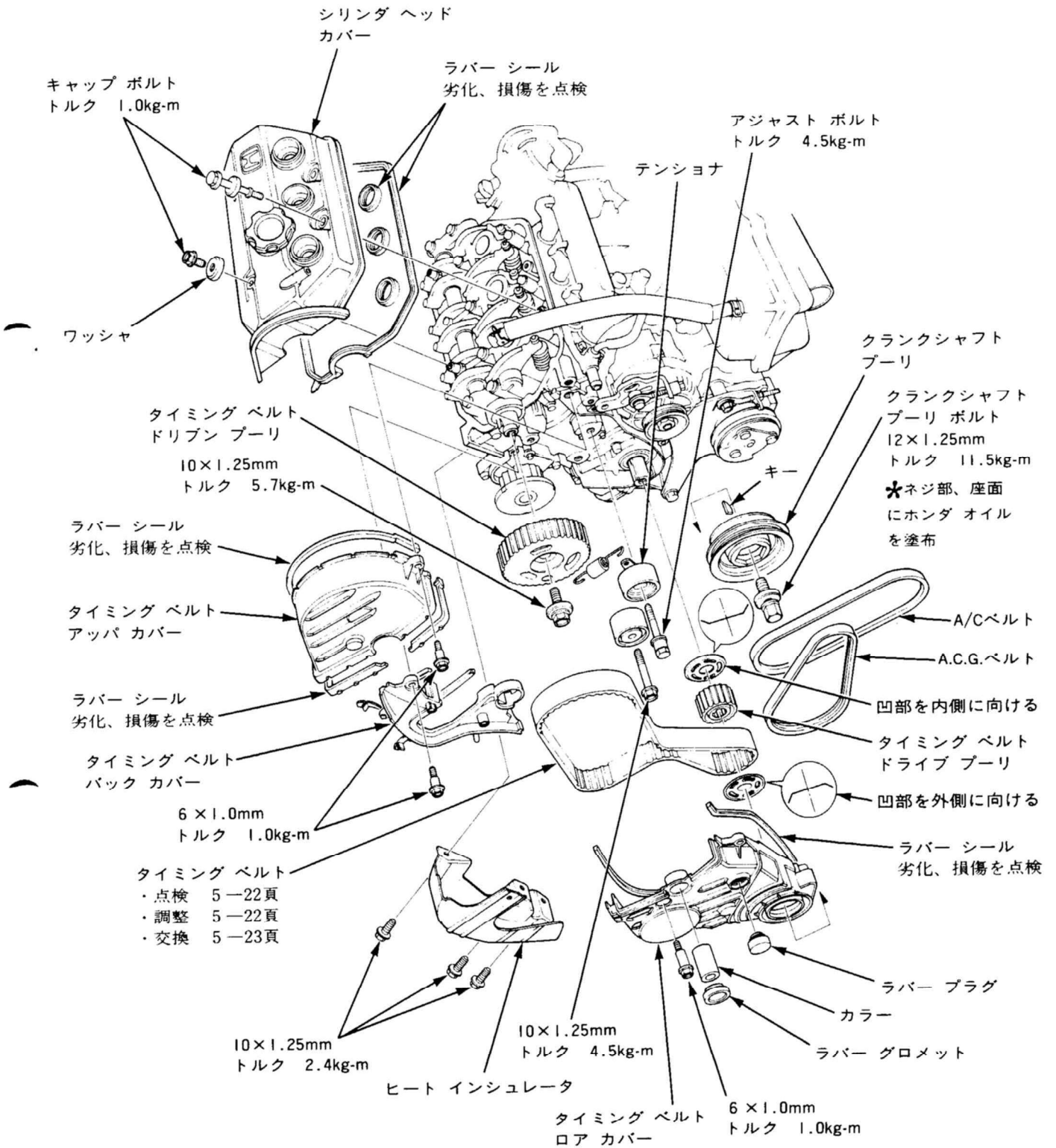
専用工具

No.	工具番号	工具名称	備考
①	07JAB-0010000	クランクプーリホルダセット	
①-1	07JAA-0010100	ソケットレンチ 17mm	
①-2	07JAB-0010200	ハンドル	
②	07JAB-0010400	プーリホルダアタッチメント HEX 50mm	
③	07KAK-SJ40100	エンジンチルトハンガセット	



タイミング ベルト

展開図



タイミング ベルト

点検

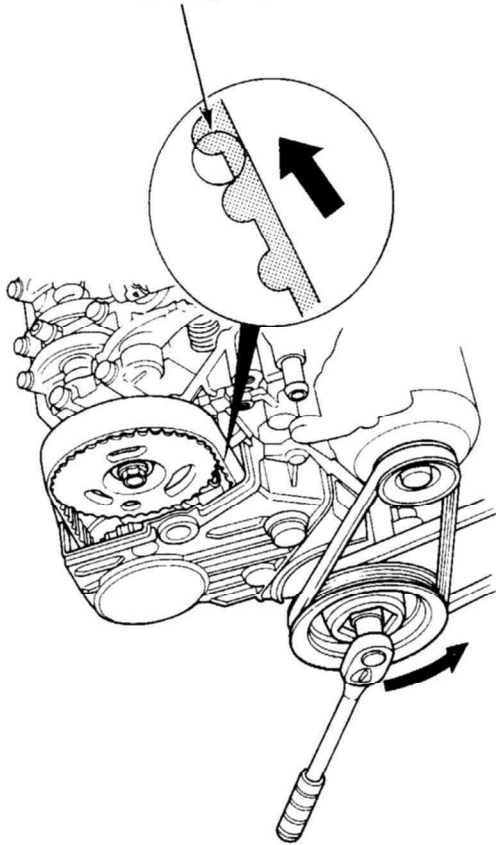
注意 プーリー ボルトは、右ネジである。点検時は図のようにボルトを利用して、反時計回転させるためゆるむことがある。最後にボルトをトルク レンチを使用して規定トルクで締付けること。

12×1.25mm

トルク 11.5kg-m

- ①エンジン サイド マウントを外し、サイド マウント ブラケットを取外す。
- ②ヘッド カバー、タイミング ベルト アップ カバーを外す。
*エンジン オイルをベルトに付着させないように注意する。
- ③ベルト全体の損傷、摩耗、エンジン オイル等油脂類の付着を点検する。
*点検はプーリーを回しながら行う。

・特にこの部分の損傷、
摩耗に注意する



- 損傷、摩耗があった場合タイミング ベルトを交換する。
- エンジン オイル等、油脂類の付着が認められる場合はベルト以外の清掃を行った後ベルトを交換する。

張り調整

注意 調整はエンジン冷間時(38°C以下)行うこと。

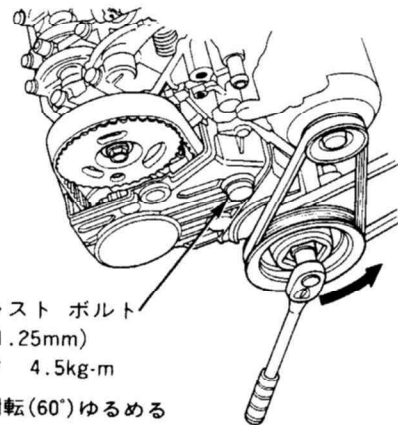
注意

- ・ベルトの張り調整を行う前に、点検を行うこと。
- ・ベルトの張り調整はスプリング自動調整式のため、スプリング内以外の力をかけて張ってはいけない。
- ・ベルトの張り調整は、ベルト交換あるいは、その他の部品を交換するために、ベルトを取外した時以外は行わないこと。
- ・アジャスト ボルトは $\frac{1}{2}$ 回転(60°)ゆるめるだけで抜かないこと。
- ・プーリー ボルトは、右ネジである。点検時は図のようにボルトを利用して、反時計回転させるため、ゆるむことがある。最後にボルトをトルク レンチを使用して規定トルクで締付けること。

12×1.25mm

トルク 11.5kg-m

- ①エンジン サイド マウントを外し、サイド マウント ブラケットを取外す。
- ②ヘッド カバー、タイミング ベルト アップ カバーを外す。
*エンジン オイルをベルトに付着させないように注意する。
- ③No. 1 シリンダを圧縮上死点にする。
- ④アジャスト ボルトをゆるめる。



アジャスト ボルト
(10×1.25mm)
トルク 4.5kg-m

* $\frac{1}{2}$ 回転(60°)ゆるめる
だけで抜かないこと

- ⑤クランクシャフトを回転方向にタイミング ベルト ドリブン プーリーの歯数で5山回した位置(ポンチマークをシリンダ ヘッド上面に合わせる)で止める。
注意 5山以上回してしまった場合でも絶対に逆回転させないこと。正転(反時計回転)させて再度No. 1 シリンダの圧縮上死点に合わせて調整を行う。
- ⑥アジャスト ボルトを締付ける。

交換

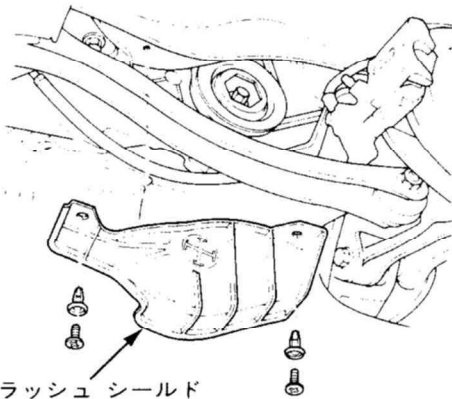
注意

- ・ガレージ ジャッキ、リジッド ラック、ハンガ フックは所定の位置に確実に掛ける(1章参照)。
 - ・安全確保のため、外したホイールをリジッド ラック前のサイド シル下に置く。
 - ・前輪には、車輪止めを使用する。
 - ・フェンダ カバーを使用し、塗装面に傷を付けないようにする。
 - ・配線関係を取外す時は断線しないよう、カブラ、コネクタ部を持って静かに外す。
 - ・配線やチューブ類を取付ける時は、間違っ て接続しないようにする。またコード チューブ類の噛込みや他部との干渉がないようにする。
- ★ ベルトを外す前に、クランク シャフト ブーリーを回してNo. 1 シリンダの圧縮上死点にする(5-26頁)。
- ・タイミング ベルトを外した後ウォータ ポンプの点検を行う(5-57頁)。

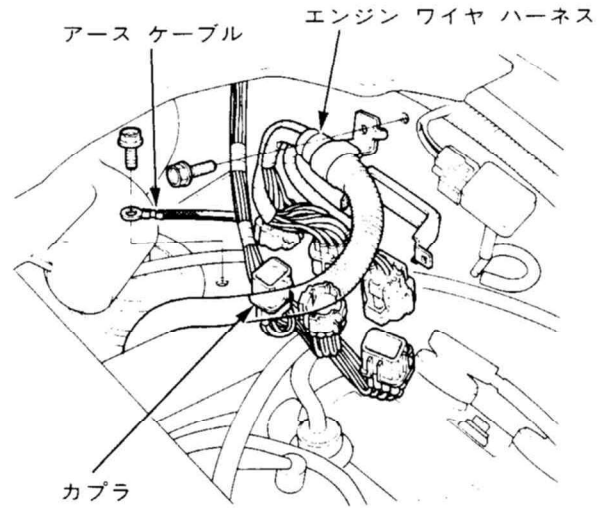
- ①トランクを開け、バッテリー ターミナル⊖⊕を外し、バッテリーを取外す。

注意

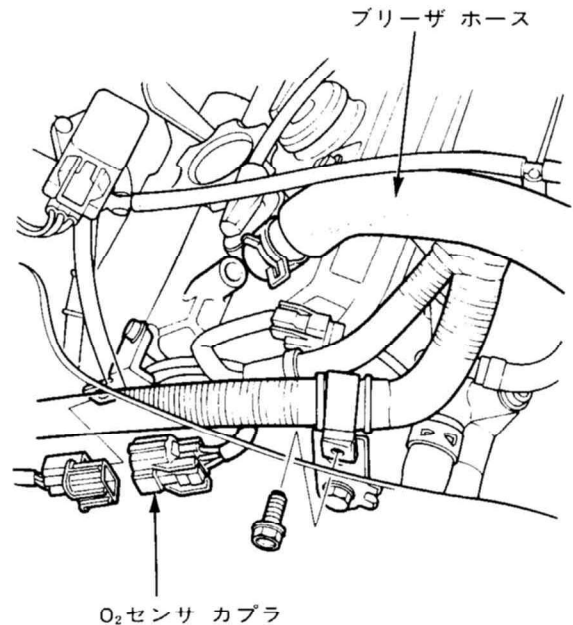
- ・バッテリー ターミナルを外す時は、必ず⊖側を先に外す。
 - ★取付け時、ターミナルの接触部をサンド ペーパー等で磨いて取付け、周囲にグリースを塗布する。
- ②ロックを外し、ソフト トップにたるみを持たせ、後端のスナップ ボルトを外し、ファスナを外してリヤウインドを外す。ソフト トップを前側に押し付け、中央のエンジン ルーム カバーを取外す(14章R/Lシート ベルト ベースの脱着を参照)。
- 注意** タイミング ベルトの交換作業では、R/Lシート ベルト ベースの取外しは不要で、中央のエンジン ルーム カバーのみを取外す。
- ③エンジン スプラッシュ シールドを取外す。



- ④L.サイド エンジン ワイヤ ハーネス カブラ、ハーネス クランプおよびエンジン アース ケーブルを取外す。



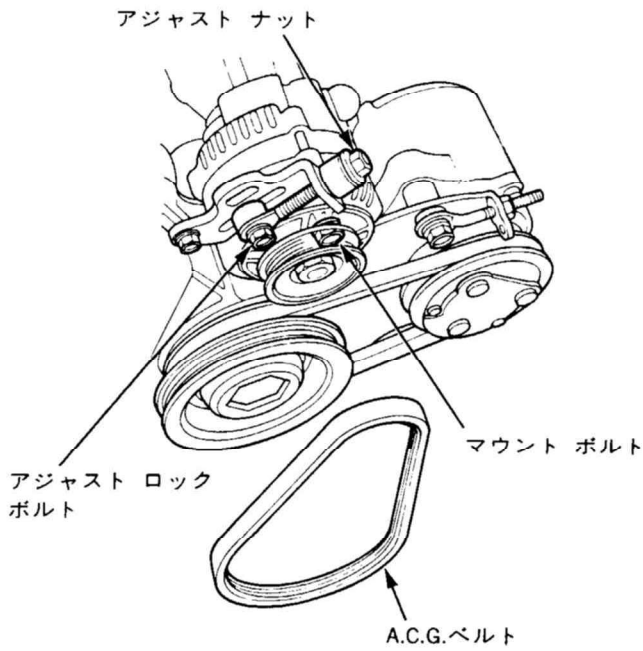
- ⑤O₂センサ カブラ、ハーネス クランプおよびブリーザ ホースを取外す。



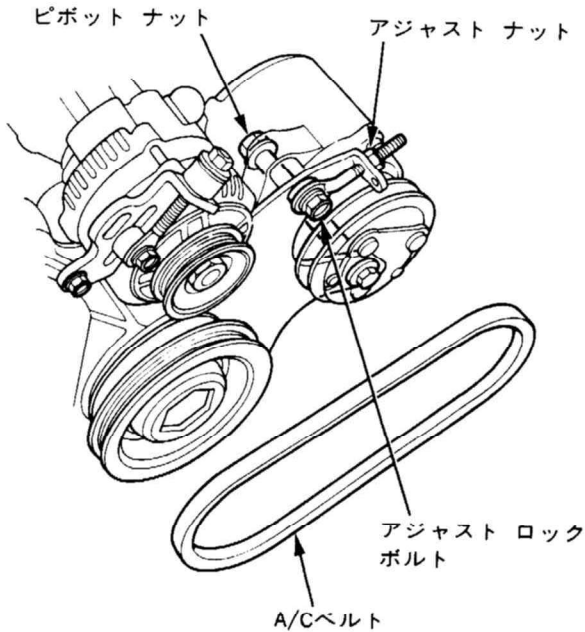
タイミング ベルト

交換

⑥A.C.G.アジャスト ナットをゆるめて、A.C.G.ベルトを取外す。

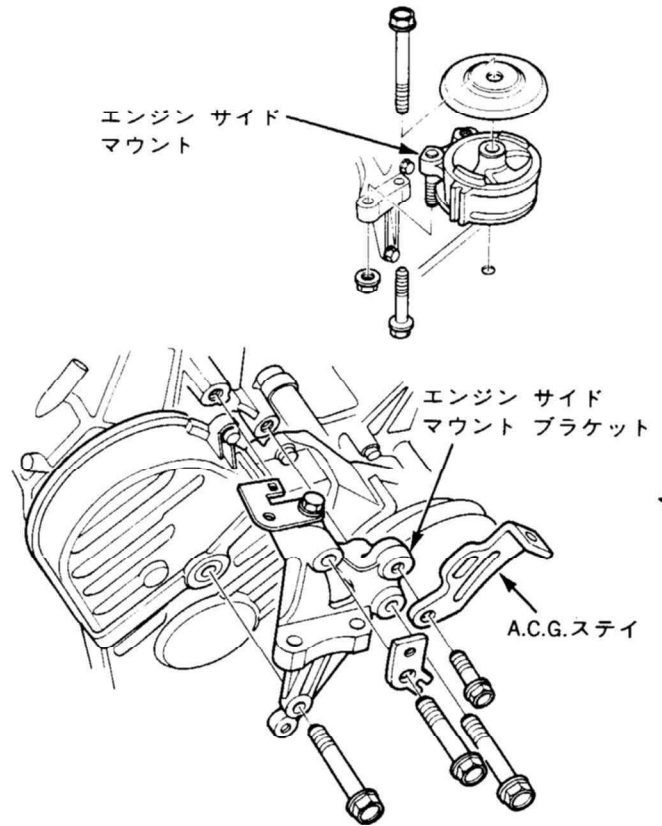


⑦A/C アジャスト ナットをゆるめて、A/Cベルトを取外す。

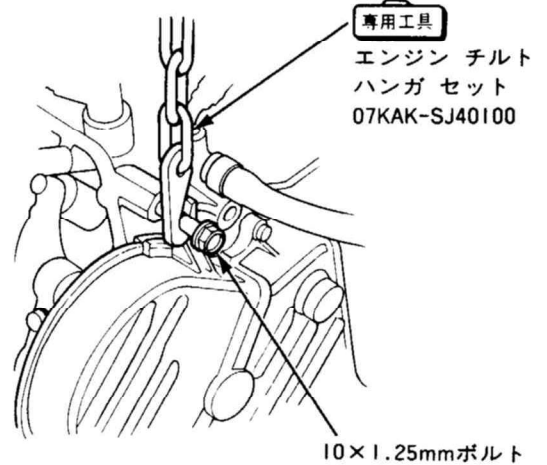


⑧触媒コンバータから排気温度センサを外し、タイミング ベルト カバー ヒート インシュレータを取外す。

⑨L.サイド マウント ラバーを取外し、サイド マウント ブラケットを取外す。



注意 タイミング ベルト カバーを外す時、エンジンを上下させると外しやすいため、10×1.25mmボルトを使ってチェーンで吊る。



⑩プラグ キャップおよびプラグ コードを外す。
⑪シリンダ ヘッド カバーを外し、タイミング ベルト アップ カバーを取外す。

*インジェクタ カブラを外すとシリンダ ヘッド カバーを外しやすい。

⑫ タイミング ベルト ロア カバーを取外す。

* エンジンをすこし下げ、傾けるとタイミング ベルト ロア カバーを外しやすい。

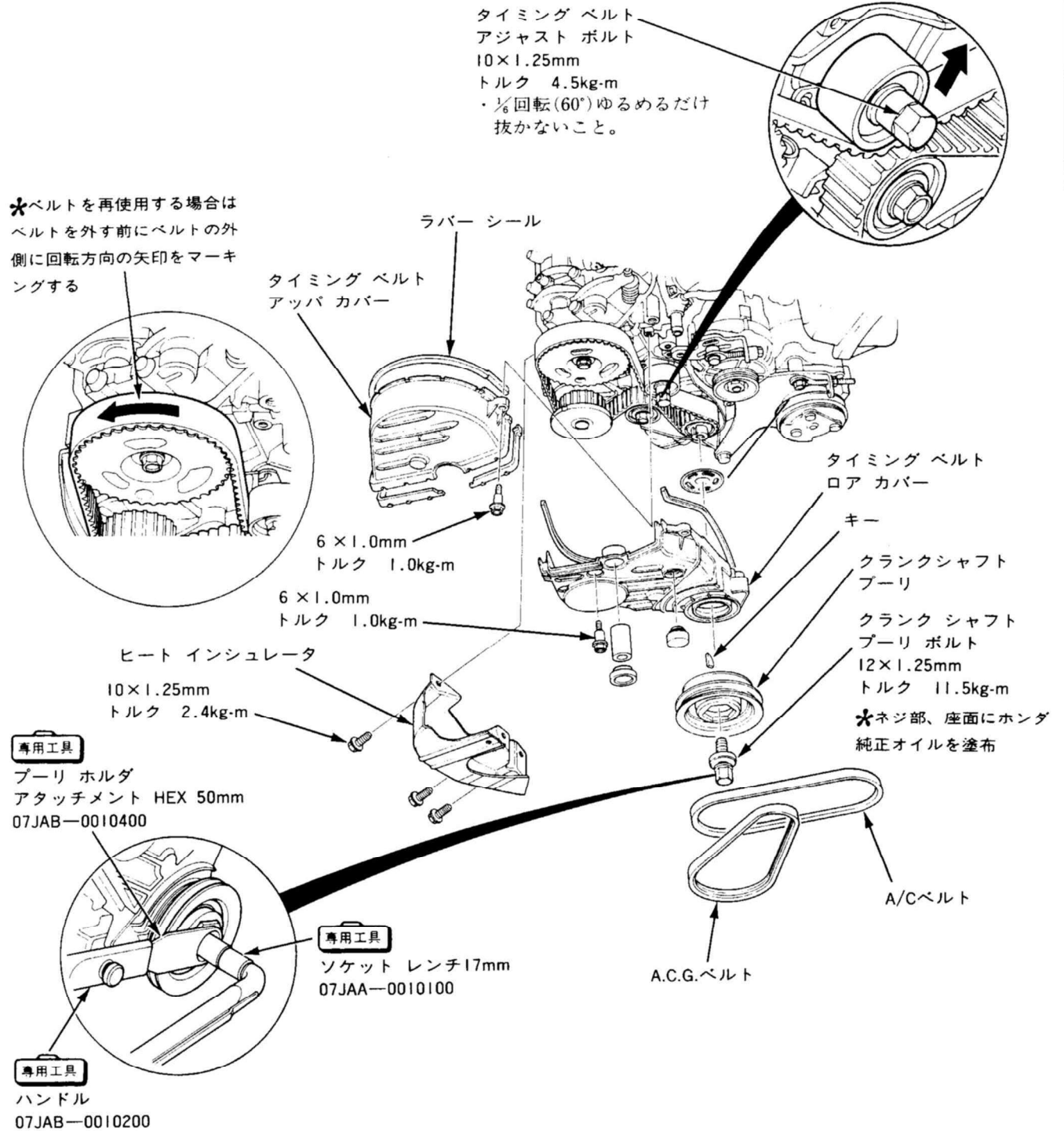
⑬ アジャスト ボルトを $\frac{1}{8}$ 回転(60°)ゆるめ、アジャスト プーリをゆるみ側で固定する。

⑭ タイミング ベルトを交換する。

⑮ 取付けは取外しの逆手順で行うが、バルブ タイミングを合わせる(5-26頁)。

⑯ 交換後はタイミング ベルトの張り調整を行う(5-22頁)。

⑰ A.C.G.ベルトおよびA/Cベルトの張り調整を行う(5-11、5-12頁)。

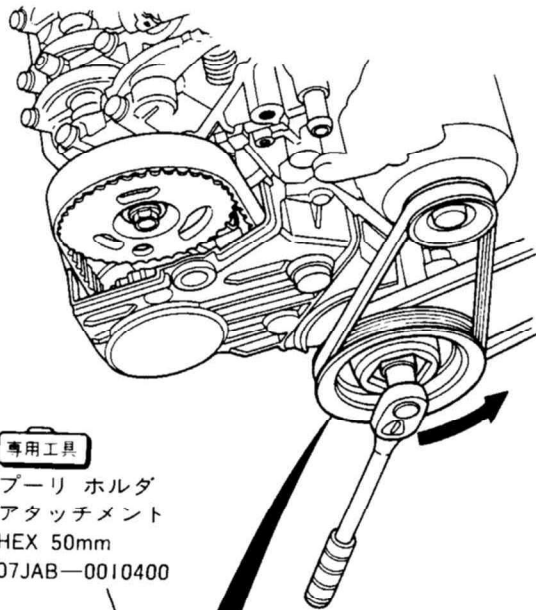


タイミング ベルト

バブル タイミング合わせ

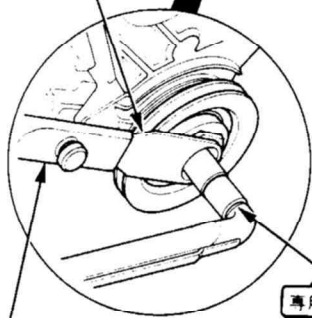
- ① シリンダ ヘッド カバー を取外す。
- ② タイミング ベルト アップ カバー を取外す。
- ③ クランク シャフト を回転させ、フライホイールの TDCマーク を合わせマーク に合わせる。

***** インスペクション ホール はトランスミッション ケース との結合部にあり、ラバー プラグ を外し上部からのぞいて合わせる。



専用工具

プーリ ホルダ
アタッチメント
HEX 50mm
07JAB-0010400



専用工具

ハンドル
07JAB-0010200

専用工具

ソケット レンチ 17mm
07JAA-0010100

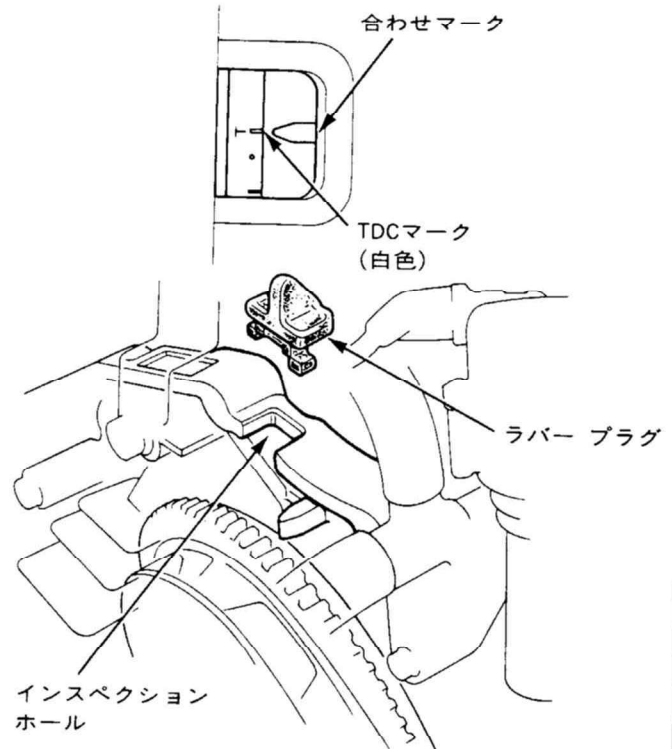
注意 プーリ ボルト は、右ネジである。点検時は図のようにボルトを利用して、左回転させるためゆるむことがある。最後にボルトをトルク レンチを使用して規定トルクで締付けること。

12×1.25mm

トルク 11.5kg-m

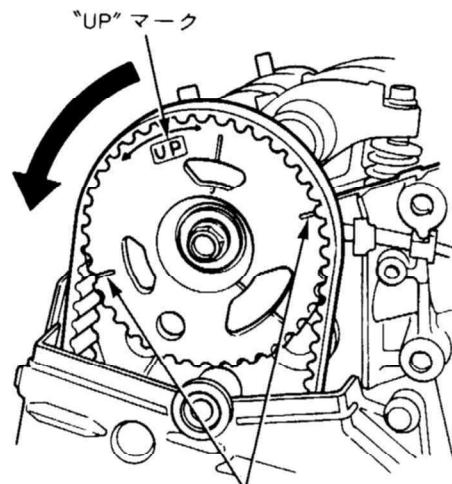
No.1 シリンダ圧縮上死点時のクランク シャフト位置

<フライホイール>



インスペクション
ホール

- ④ タイミング ベルト ドリブン プーリの位置が、上死点位置になっているかを確認する。
- ⑤ タイミング ベルト ドリブン プーリの位置が、上死点位置に合っていない場合は、タイミング ベルトを外し、下図のようにプーリを合わせタイミング ベルトを取付ける。
・タイミング ベルトの取付け、取外しは5-23頁の交換を参照。



TDCマーク

***** シリンダ ヘッド 上面に合わせる

シリンダ ヘッド脱着

取外し.....5-30

取付け.....5-35

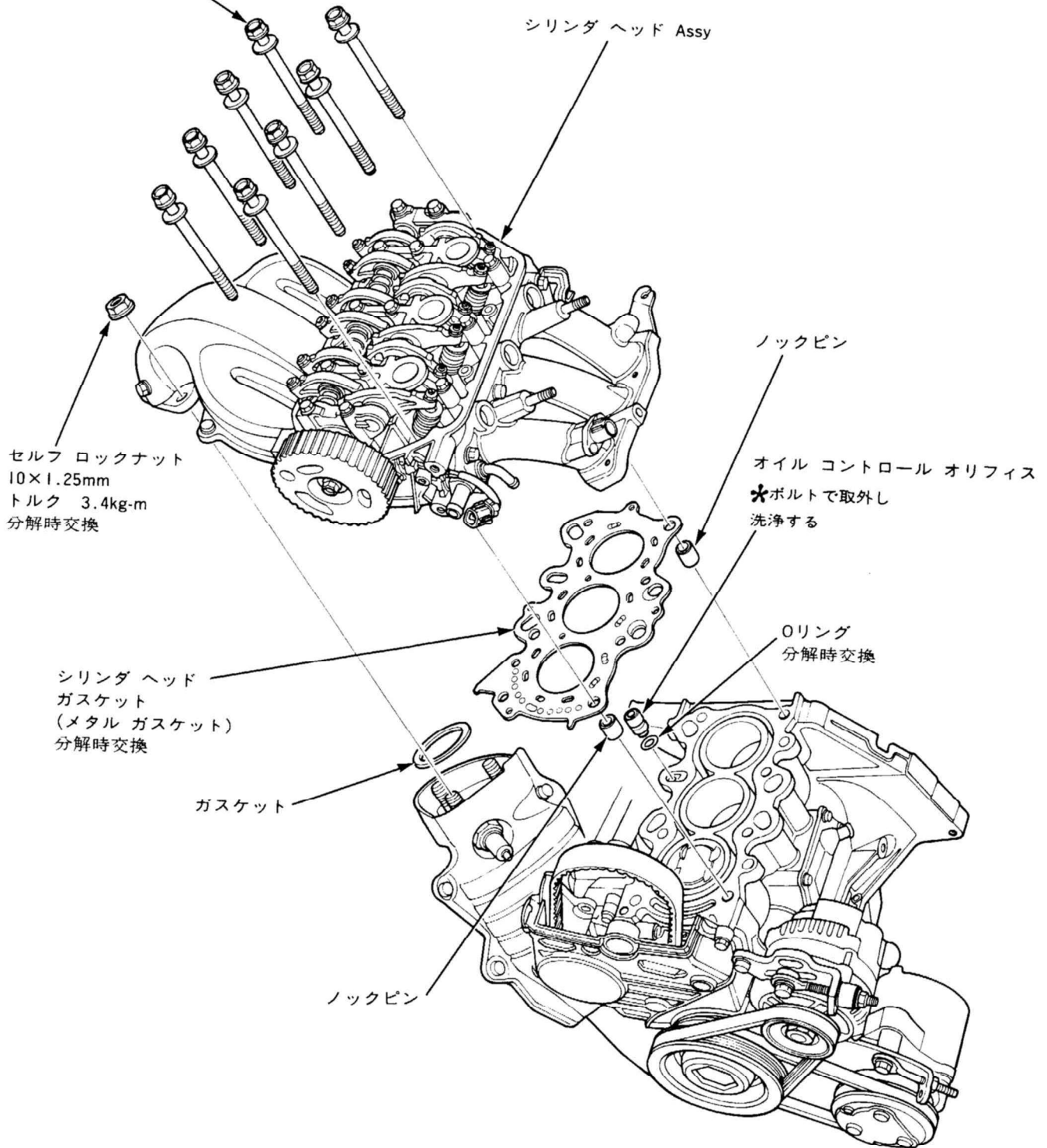
シリンダ ヘッド

取外し

★Oリング、ガスケット類は分解時必ず新品を使用する。

シリンダ ヘッド ボルト
10×1.25mm
トルク 6.2—6.8kg-m

★ネジ部、座面にホンダ
純正オイルを塗布



シリンダ判別センサ

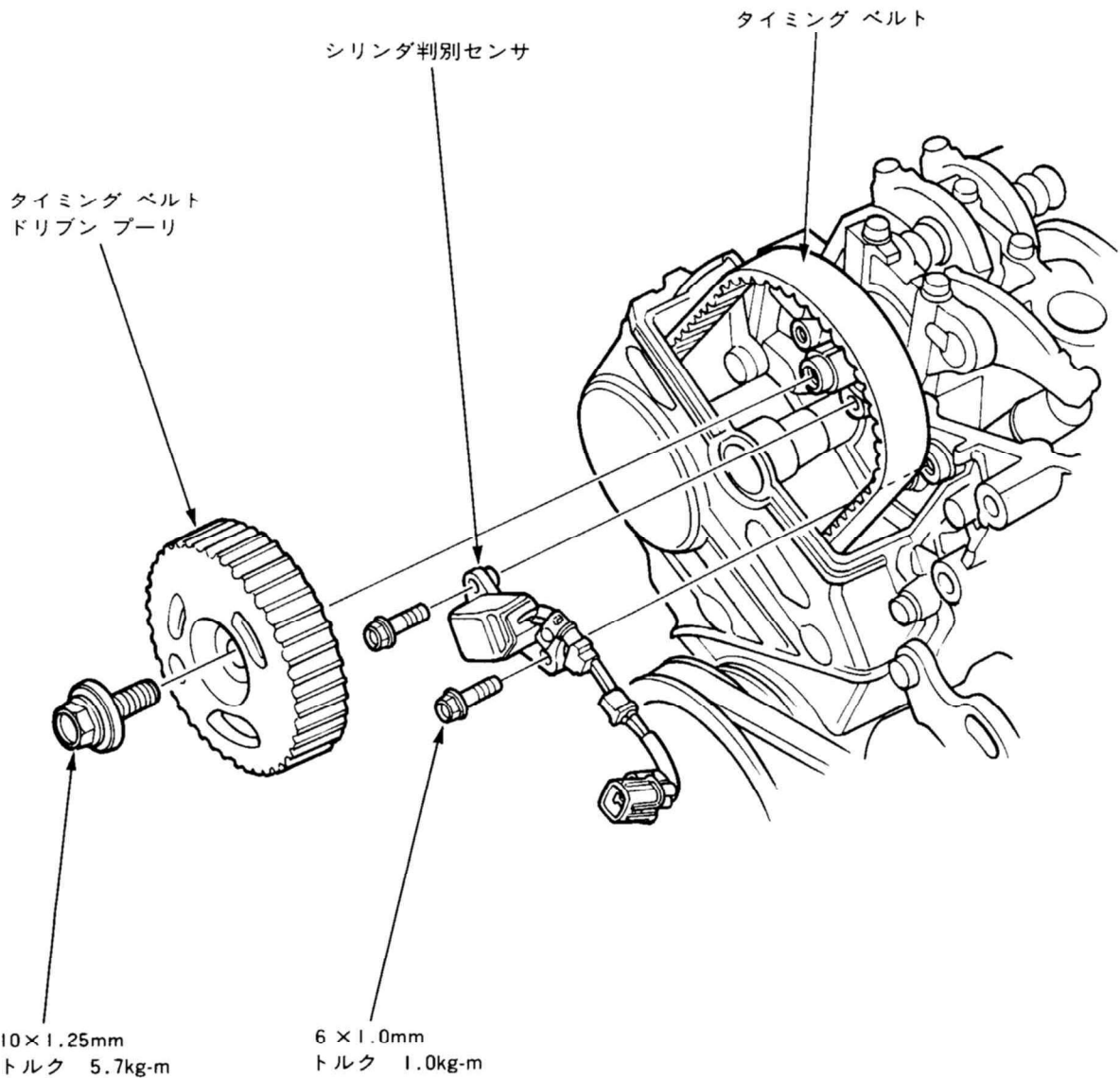
交換

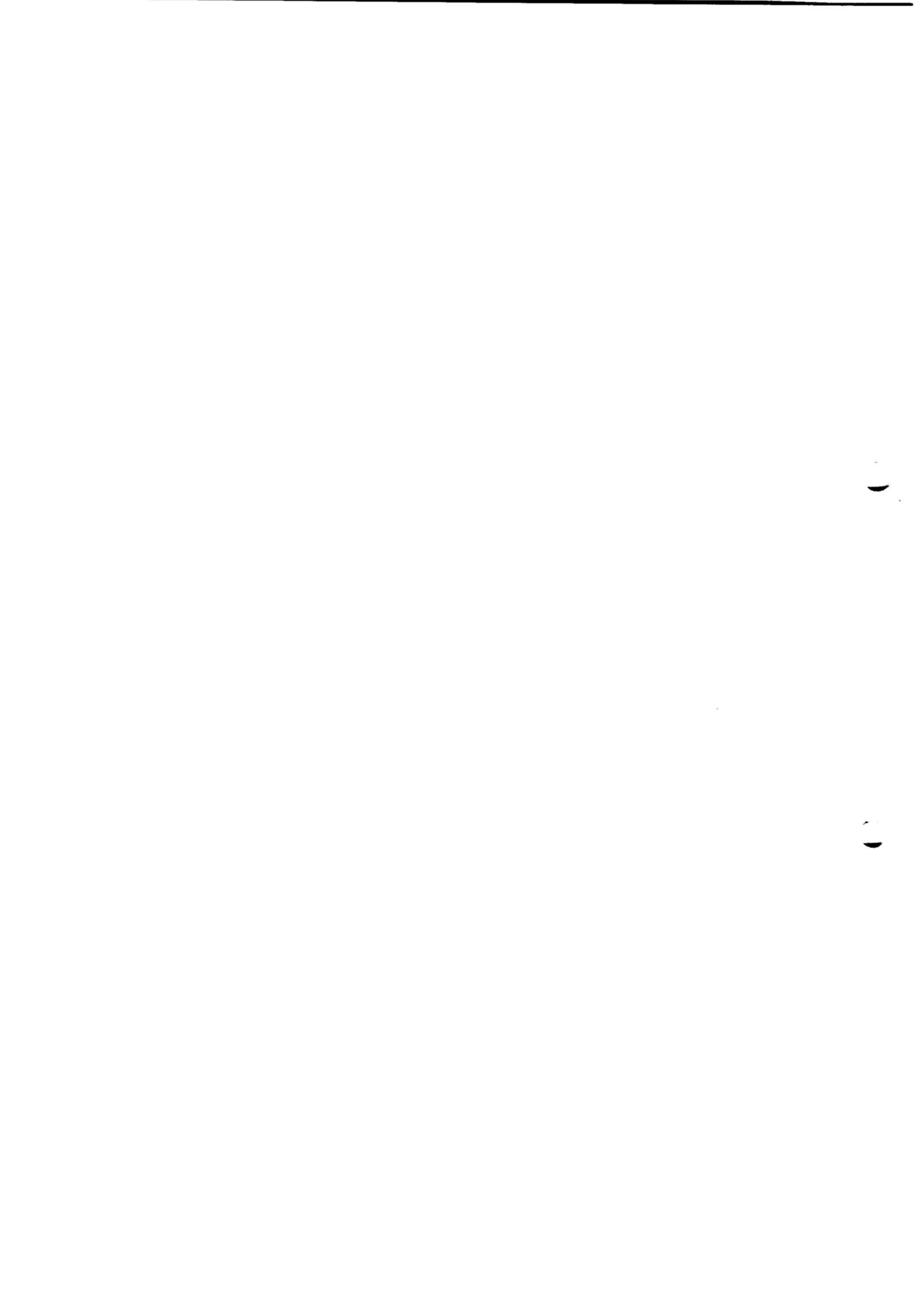
★クランクシャフトを回してNo.1シリンダを上死点に合わせる。

- ①エンジン サイド マウントを外し、サイド マウント ブラケットを取外す。
- ②シリンダ ヘッド カバーを外し、タイミング ベルト アップ カバーを取外す(5-23頁)。
- ③アジャスト ボルトを $\frac{1}{8}$ 回転(60°)ゆるめ、アジャスト プーリをゆるみ側で固定する。
- ④タイミング ベルトを外し、ドリブン プーリを取外す。
- ⑤シリンダ判別センサを交換する。

⑥取付けは取外しの逆手順だが次の項目をチェックする。

- ・バルブ タイミングを合わせる(5-26頁)。
- ・タイミング ベルトの張り調整を行う(5-22頁)。
- ・A.C.G.ベルトおよびA/Cベルト張り調整を行う(5-11、5-12頁)。





注意

- ・ガレージ ジャッキ、リジッド ラック、ハンガ フックは所定の位置に確実に掛ける(1章参照)。
- ・安全確保のため、外したホイールをリジッド ラックの前のサイドシル下に置く。
- ・前輪には車輪止めを使用する。
- ・フェンダ カバーを使用し、塗装面に傷をつけないようにする。
- ・シリンダ ヘッドの取外しは、熱によるひずみをさけるため、必ずエンジンの冷間時(38°C以下)に行うこと。
- ・メタル ガスケットを採用しているため、折り曲げないように取扱う。
- ・シリンダ ヘッドおよびシリンダのガスケット合わせ面に傷、打痕をつけないように取扱う。
- ・冷却水を電装品や塗装面に付着させないようにする。付着させた場合は速やかに拭き取ること。

注意

- ・フューエル フィード ホースの取外しは、必ずサービス ボルトをゆるめて燃圧を抜いてから行うこと(6章参照)。
- ・火気厳禁
- ・水温が高い時エキスパンション タンク キャップを外すと、冷却水に圧力がかかっているため冷却水が吹き出し危険である。水温が下がってから布切れ等でキャップを包み、静かに開ける。

- ★シリンダ ヘッドを外す前にタイミング ベルトを点検する(5-22頁)。
- ・クランク シャフト プーリを回してNo.1シリンダのTDC位置にする(5-26頁)。
- ・各センサのワイヤ、カブラおよびホース類を外す際は、組立時に間違えないように、マークしておくことと便利である。
- ・Oリング、ガスケット類は、分解時必ず新品と交換する。
- ・シリンダ ヘッド取外し作業の前にスブラッシュガードを取外す(5-23頁)。

- ①トランクを開け、バッテリー ターミナル⊖⊕を外し、バッテリーを取外す。

注意 バッテリー ターミナルを外す時は、必ず⊖側を先に取外す。

★取付け後、ターミナルの接触部をサンドペーパー等で磨いて取付け周囲にグリースを塗布する。

- ②冷却水を抜く(5-54頁)。

注意 水温が高い時には注意。

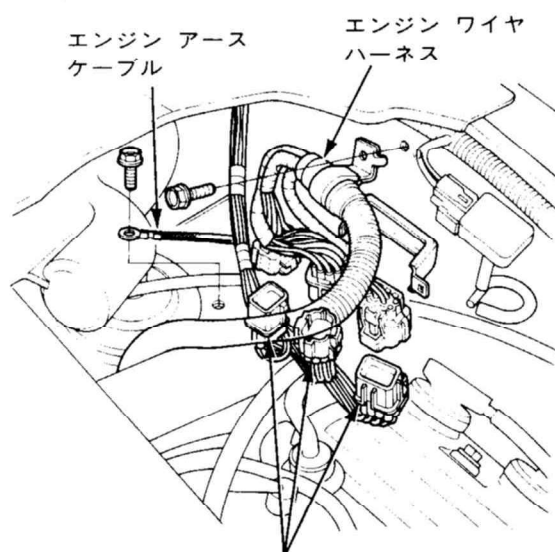
- ③ロックを外し、ソフト トップにたるみを持たせ、後端のスナップ ボルトを外し、ファスナを外してリヤウインドウを外す。ソフト トップを前側に押し付け、中央のエンジン ルーム カバーを取外す(14章 R/Lシート ベルト ベースの脱着を参照)。

注意 シリンダ ヘッドの脱着作業では、R/Lシート ベルト ベースの取外しは不要で、中央のエンジン ルーム カバーのみを取外す。

- ④エア クリーナを取外す(5-8頁)。

- ⑤エア インテーク パイプを外す。

- ⑥L.サイド エンジン ワイヤ ハーネス カブラ、ハーネス クランプおよびエンジン アース ケーブルを外す。



カブラ 3個を外す

- ⑦シリンダ ヘッド、インテーク マニホールドまわりから下記のハーネス カブラおよび関連するクランプ等を外してエンジン ワイヤ ハーネスを取外す。

- シリンダ判別センサ カブラ
- インジェクタ カブラ (No.1, No.2, No.3)
- クランク/TDCセンサ カブラ
- TWセンサ カブラ
- アース ターミナル
- TAセンサ カブラ
- EACVカブラ
- スロットル センサ カブラ
- テンプ ユニット コネクタ

シリンダ ヘッド

取外し

⑧スロットル ワイヤの接続を外す。

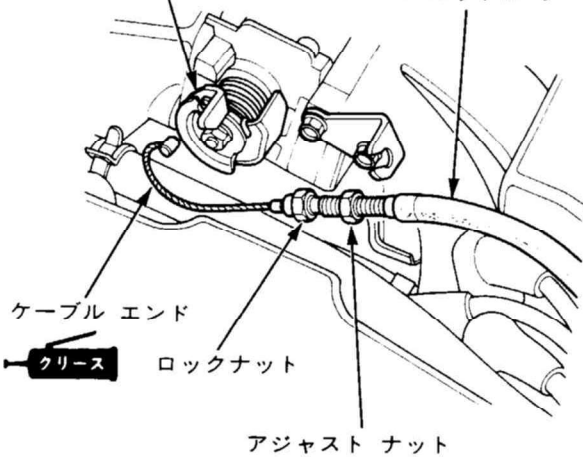
注意

- ・アジャスト ナットはゆるめないでロックナットをゆるめる。
- ・スロットル ワイヤの取外し、取付けの際は、ワイヤに異常な曲がりが発生しないように注意する。
- ・ワイヤに異常な曲がりがあれば新品と交換する。

✳取付け後は必ず調整を行う(6章参照)。

スロットル リンク

スロットル ケーブル



⑨ウエスをサービス ボルトに被せ、ボルトをゆるめて燃圧を抜く(6章参照)。

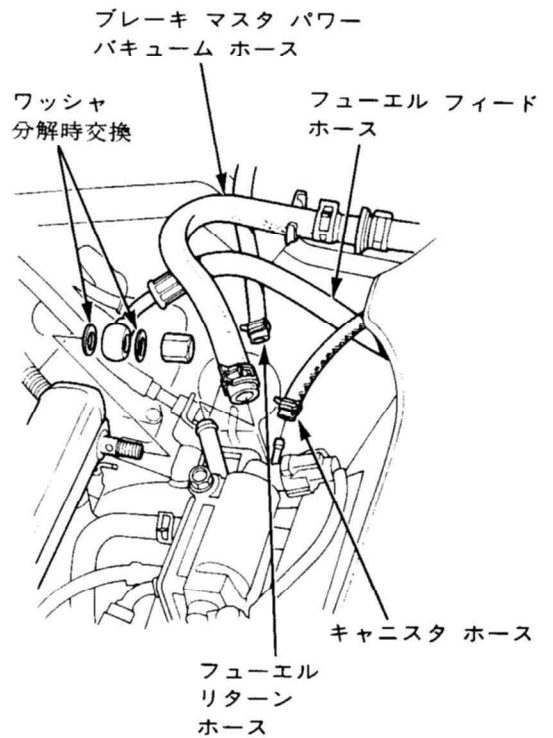
⑩フューエル フィード ホースを取外す。

⑪フューエル リターン ホースを取外す。

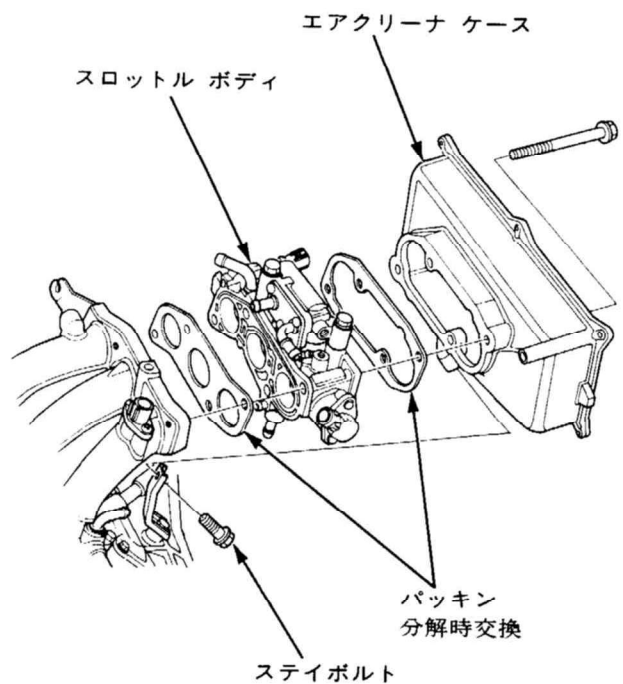
注意

- ・火気厳禁
- ・ガソリンがエンジン各部にかからないようにウエス等で受ける。
- ・ホースに必ず栓をする。

⑫キャニスタ ホースをスロットル ボディから外す。
マスタ パワー バキューム ホースを外す。

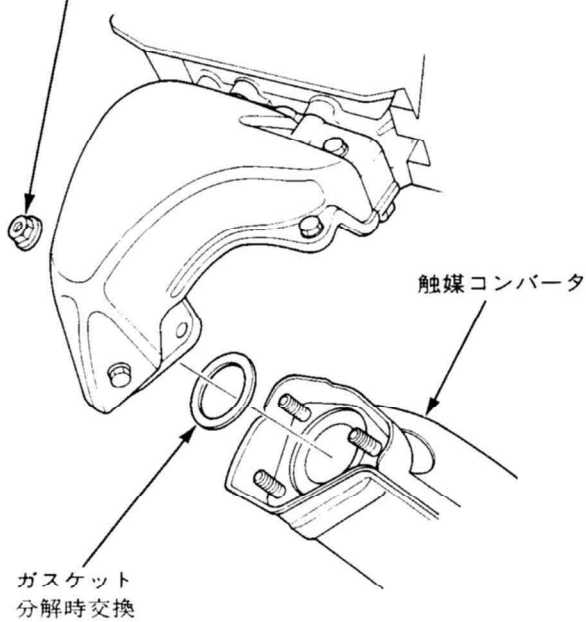


⑬ステイ ボルト 1本とボルト 4本を外し、インテーク マニホールドからスロットル ボディを外す。



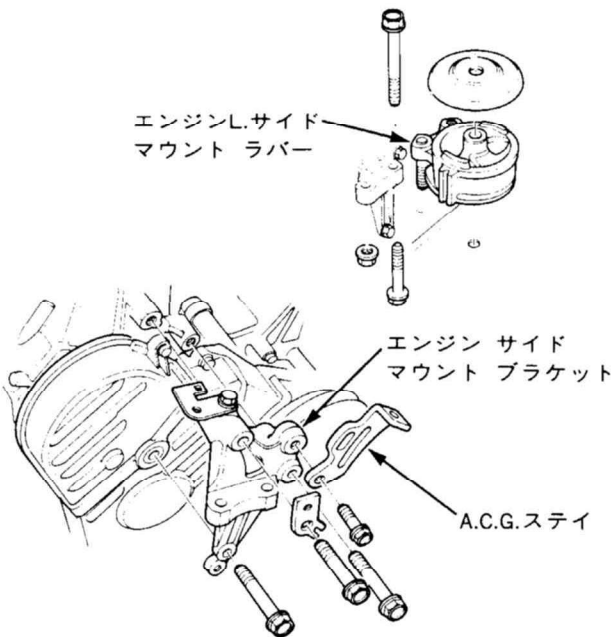
- ⑭セルフ ロックナットを外してエキゾースト マニホールドと触媒コンバータの接続を外す。

セルフ ロックナット
分解時交換



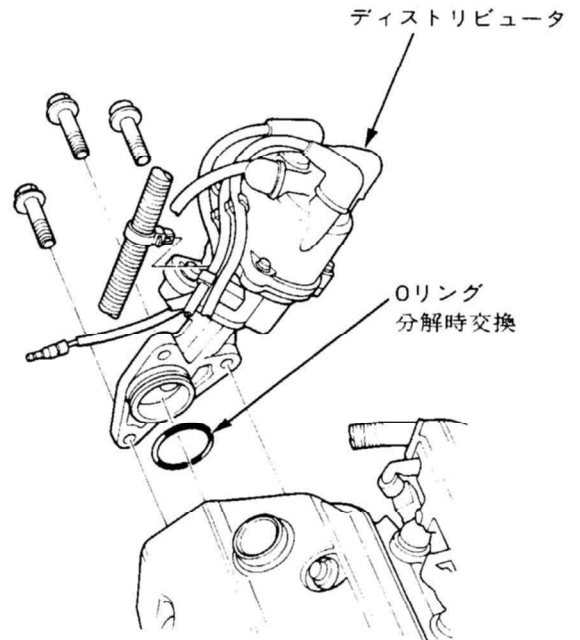
- ⑮L.サイド マウント ラバーを外し、サイド マウント ブラケットを取外す。

注意 エンジンが下がらないようにジャッキ アップする。ジャッキ アップ ポイントはサブ オイルパンで必ず木片かウエスを当てること。



- ⑯キャップを外し、プラグ コード、センタ コード、ノイズ コンデンサ ワイヤを外す。

- ⑰ディストリビュータを外す。

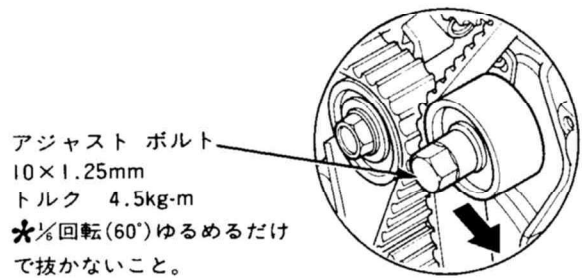


- ⑱シリンダ ヘッド カバーを外し、タイミング ベルト アップ カバーを取外す。

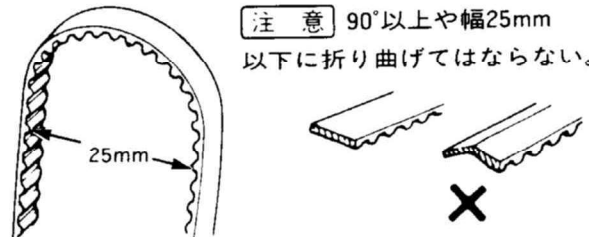
*インジェクタ カプラを外すと、ヘッドカバーを外しやすい。

- ⑲タイミング ベルト アジャスト ボルトを $\frac{1}{2}$ 回転 (60°)ゆるめ、アジャスト プーリをゆるみ側で固定し、タイミング ベルトを取外す。

*タイミング ベルトを外す前に、No. 1シリンダを圧縮上死点にする。



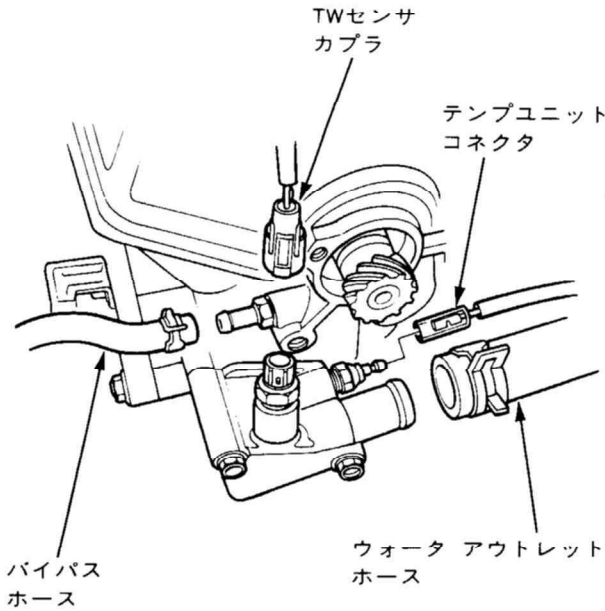
注意 90°以上や幅25mm以下に折り曲げてはならない。



シリンダ ヘッド

取外し

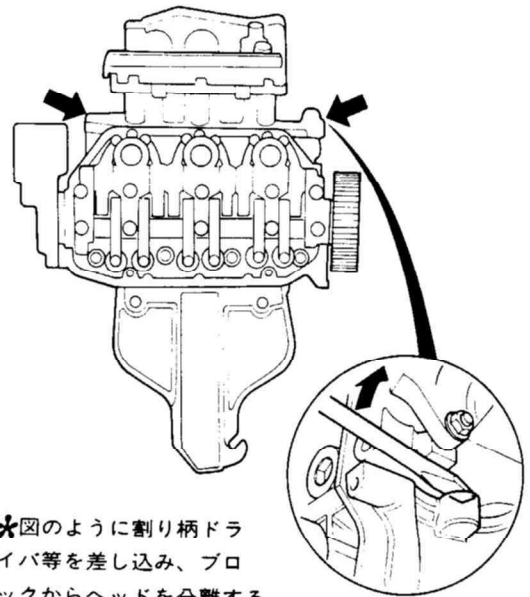
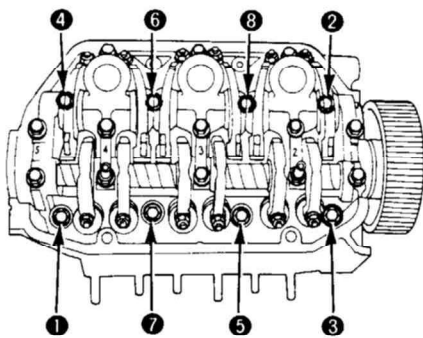
- ⑳ウォータ アウトレット ホースをエンジン側で取外す。バイパス ホースを取外す。
- ㉑TWセンサ カプラおよびテンプ ユニットのコネクタを取外す。



- ㉒シリンダ ヘッド ボルトを外してシリンダ ヘッドを取外す。

注意 ヘッド ボルトは一度にゆるめずに外側から対角に徐々にゆるめる。

シリンダ ヘッド ボルトゆるめ順序



*****図のように割り柄ドライバ等を差し込み、ブロックからヘッドを分離する

- ㉓インテーク マニホールドをシリンダ ヘッドから外す。

- ㉔エキゾースト マニホールドをシリンダ ヘッドから外す。

*****シリンダ ヘッドの分解整備については、ホンダE07Aエンジン整備編(60P3600)を参照すること。

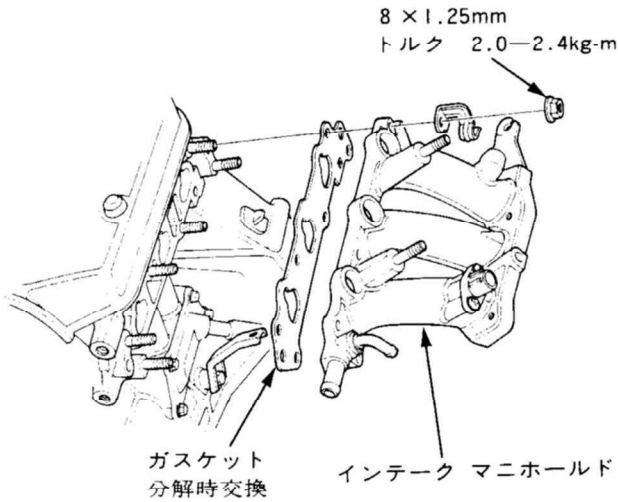
取付け

①取付けは取外しの逆手順で行うが要点を記載する。

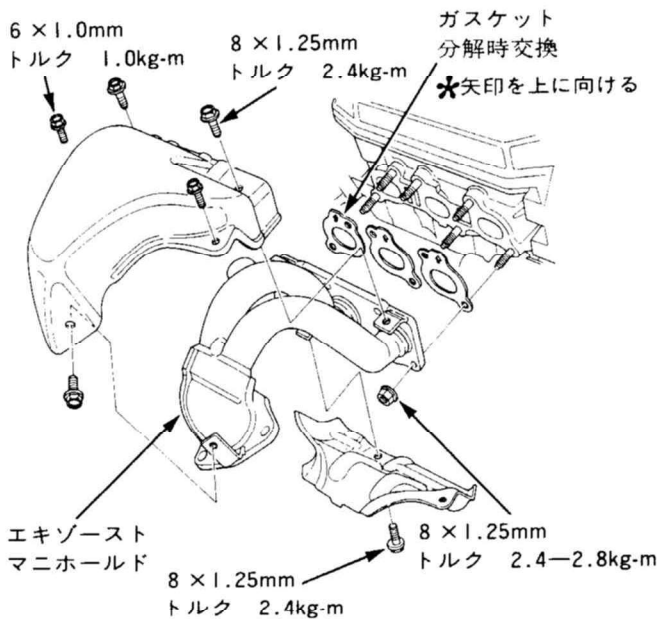
- ★ヘッド ガスケット、マニホールド、ガスケットは分解時必ず新品を使用する。
- ・シリンダ ヘッドとシリンダの取付け面は、きれいにしておく。
- ・カムシャフト(ドリブン プーリ)を上死点にし、クランクシャフトをNo.1上死点しておく。
- ・ガスケットのすき間に異物が入らないように注意する。
- ・シリンダ ヘッドとシリンダのガスケット合わせ面にキズ、打コンをつけないように注意する。

②インテーク マニホールドをシリンダ ヘッドに取付ける。

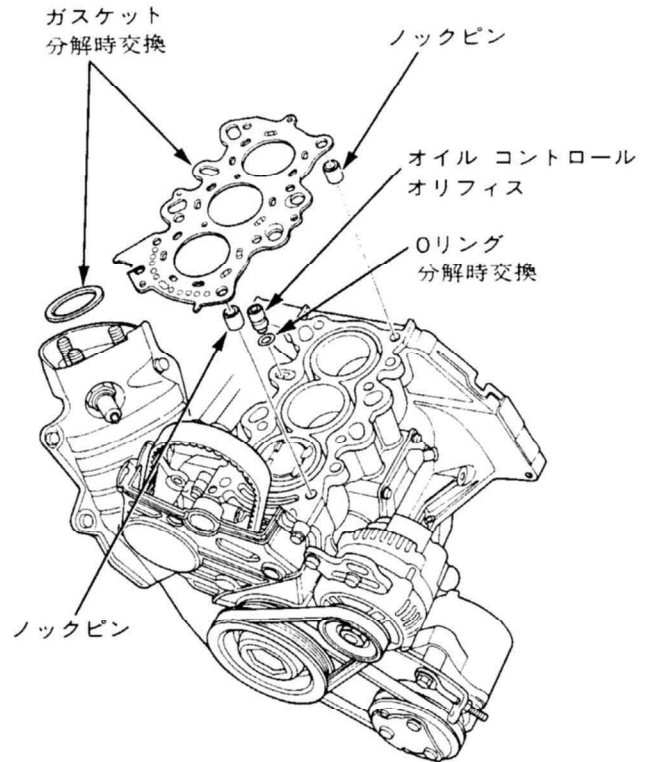
注意 マニホールドは内側から外側に仮締めし、さらに規定トルクで締付ける。



③エキゾースト マニホールドをシリンダ ヘッドに取付ける。



④シリンダにシリンダ ヘッド ガスケット、ノックピン、オイル コントロール オリフィスを取付ける。

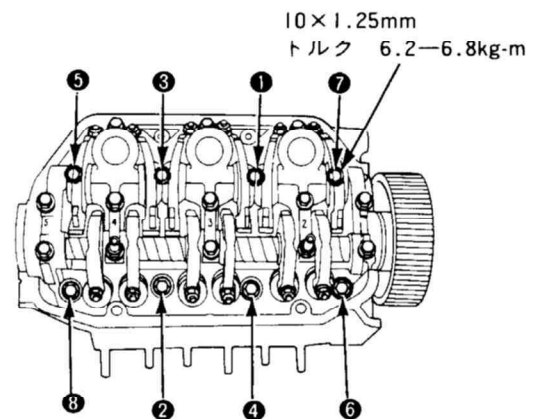


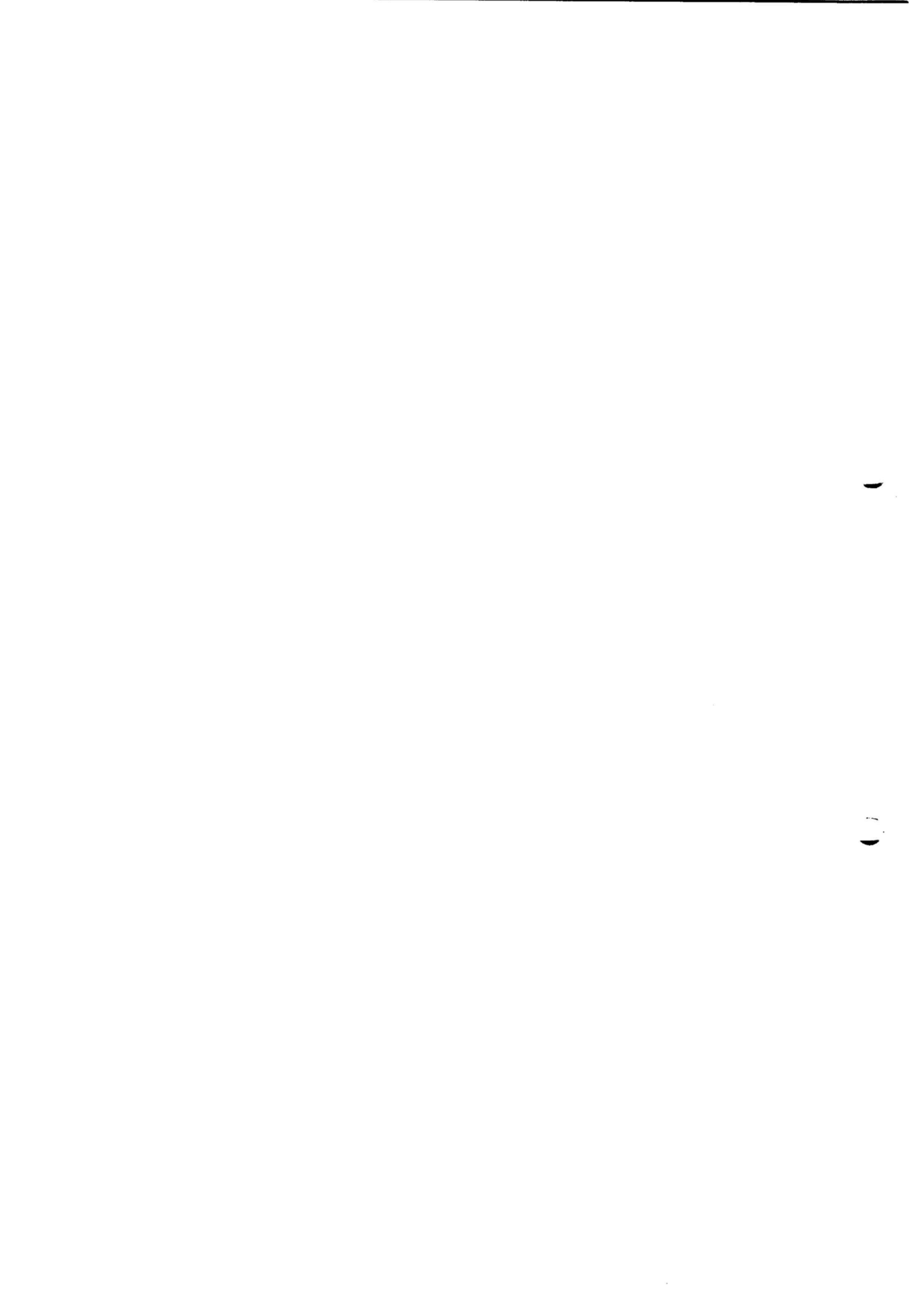
⑤シリンダ ヘッドを取付ける。

注意 シリンダ ヘッドは内側から外側に対角に仮締めし、さらに規定トルクで締付ける。

★ネジ面、ワッシャ座面にホンダ純正オイルを塗布する。

ヘッド ボルト締め付け時順序

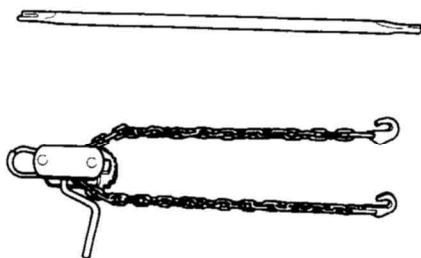




エンジン脱着

専用工具

No.	工具番号	工具名称	備考
①	07KAK-SJ40100	エンジンチルトハンガセット	



①

エンジン脱着

注意

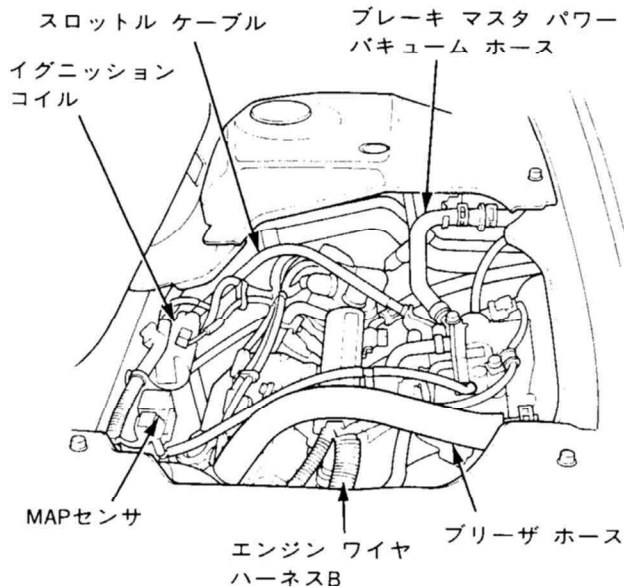
- ・ガレージ ジャッキ、リジッド ラック、ハンガ フックは所定の位置に確実に掛ける(1章参照)。
- ・安全確保のため、外したホイールをリジッド ラック前のサイド シル下に置く。
- ・前輪はパーキング ブレーキをかけ、車輪止めを使用する。
- ・フェンダ カバーを使用し、塗装面に傷をつけないようにする。
- ・配線を取外す時は断線しないようにカプラ、コネクタ部を持って静かに外す。
- ・配線やチューブ類を取付ける時は、誤って接続しないように注意する。またコード チューブ類の噛み込みや他部との干渉がないようにする。
- ・冷却水を電装品や塗装面に付着させないようにする。付着させた場合は速やかに拭き取ること。

注意

- ・フューエル フィード ホースの取外しは、必ずサービス ボルトをゆるめて燃圧を抜いてから行うこと(6章参照)。
 - ・火気厳禁
 - ・水温が高い時エキスパンション タンク キャップを外すと、冷却水に圧力がかかっているため冷却水が拭き出し危険である。水温が下がってから布切れ等でキャップを包み、静かに開ける。
- ①トランクを開け、バッテリー ターミナル⊖⊕を外し、バッテリーを取外す。

注意

- ・バッテリー ターミナルは、必ず⊖側を先に外す。



- ・取付ける時は、バッテリー ターミナルの接触部をサンドペーパー等で磨いた後取付け、周囲にグリースを塗布する。

- ②トランク マットのモールをフックから外し、ボルト4本をゆるめてメンテナンス リッドを取外す(5-8頁)。
- ③ロックを外し、ソフト トップにたるみを持たせ、後端のスナップ ボルトを外し、ファスナを外してリヤ ウインドを外す。ソフト トップを前側に押し付け、中央のエンジン ルーム カバーを取外す(14章R/L シート ベルト ベースの脱着を参照)。

注意

- ・エンジンの脱着作業では、R/L シート ベルト ベースの取外しは不要で、中央のエンジン ルーム カバーのみを取外す。

- ④冷却水を抜く(5-54頁)。

- ・**注意** 高温時には注意。

- ⑤ドレン ボルトを外してエンジン オイルを抜く。

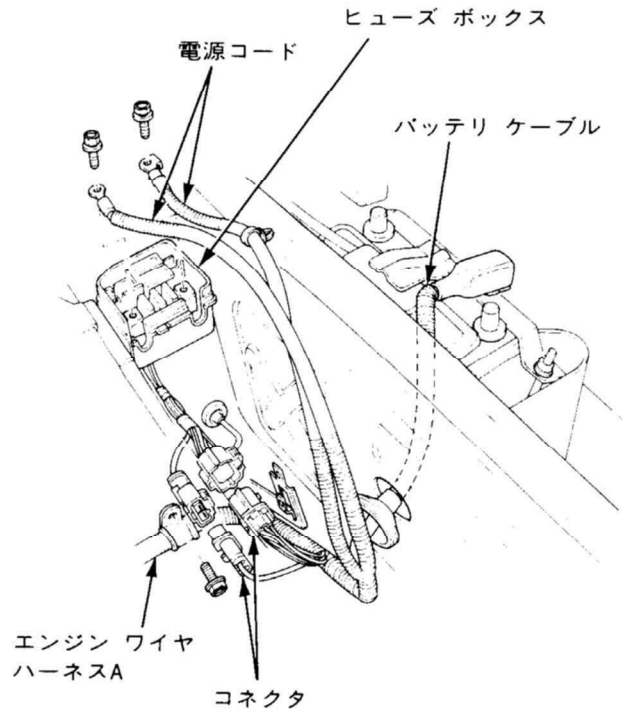
注意

- ・ドレン ボルトを取付ける時は、必ず新品のワッシャを使用する。

- ⑥トランスミッション オイルを抜く(8章参照)。

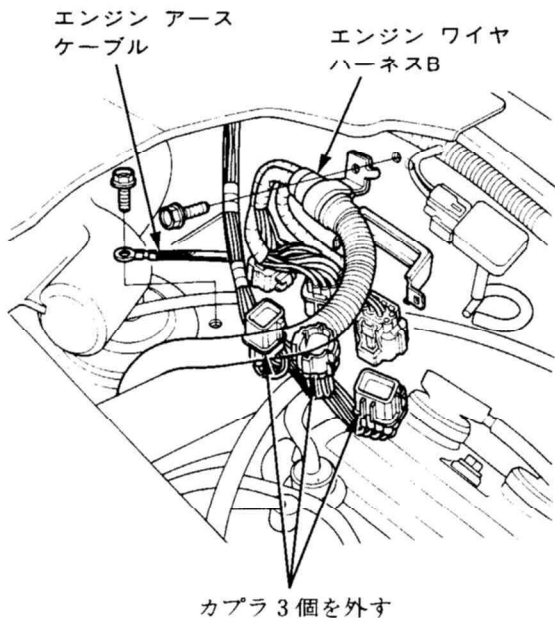
- ・ドレン ボルトは市販工具の9.5mm(3/8")四角ソケット レンチで外す。

- ⑦ヒューズ カバーを外し、電源ケーブルを取外し、エンジン ワイヤ ハーネスAのカプラ2個とクランプを外し、エンジン ルーム内に引き込む。

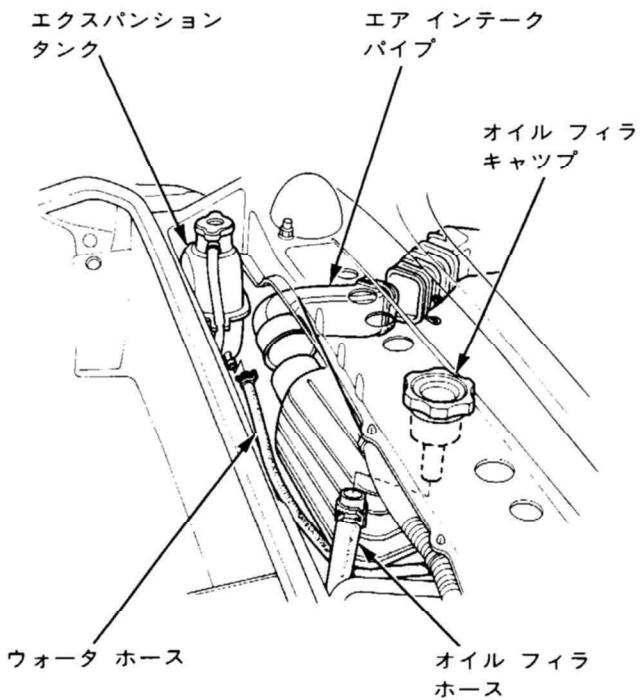


エンジン脱着

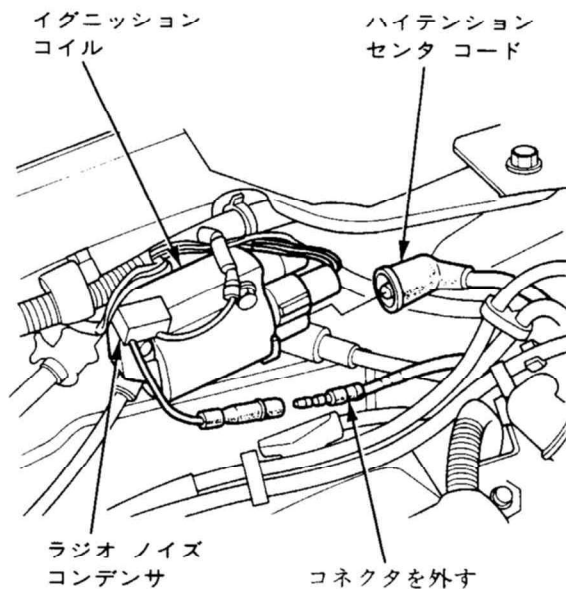
- ⑧L.サイドのエンジン ワイヤ ハーネスBのカプラ3個、クランプおよびエンジン アース ケーブルを取外す。



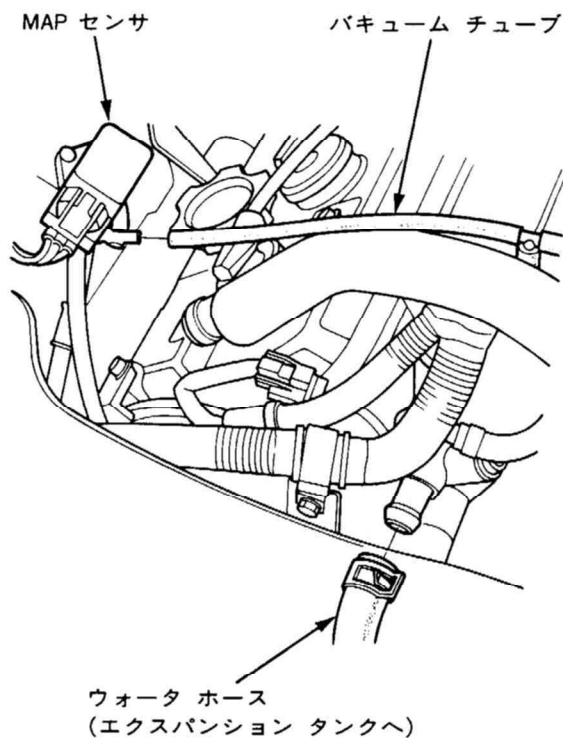
- ⑨エキスパンション タンクからウォータ ホースを取外す。
- ⑩エンジン オイル フィラ ホースを取外す。
- ⑪エア インテーク パイプを取外す。



- ⑫エア クリーナ カバーとエア クリーナ エレメントを取外す(5-8頁)。
- ⑬イグニッション コイルからハイテンション センタ コードとラジオノイズ コンデンサ コネクタを取外す。



- ⑭MAPセンサからバキューム チューブを取外す。
- ⑮エキスパンション タンクからのウォータ ホースを取外す。



⑯ウエスをサービス ボルトに被せ、ボルトをゆるめて燃圧を抜く(6章参照)。

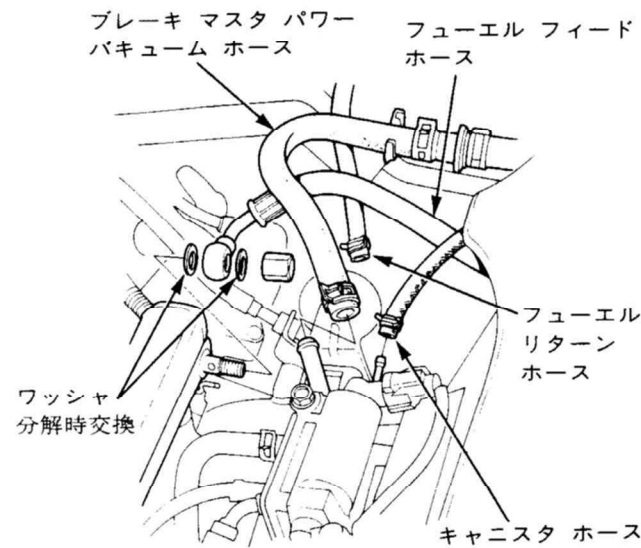
⑰フューエル フィード ホースを取外す。

⑱フューエル リターン ホースを取外す。

注意

- ・火気厳禁
- ・ガソリンがエンジン各部にかからないようにウエス等で受ける。
- ・ホースに必ず栓をする。

⑲ブレーキ マスタ パワーのバキューム ホースとキャニスタ ホースを外す。

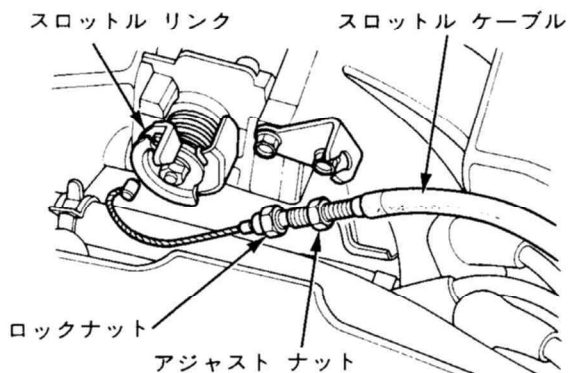


⑳スロットル ケーブルの接続を外す。

注意

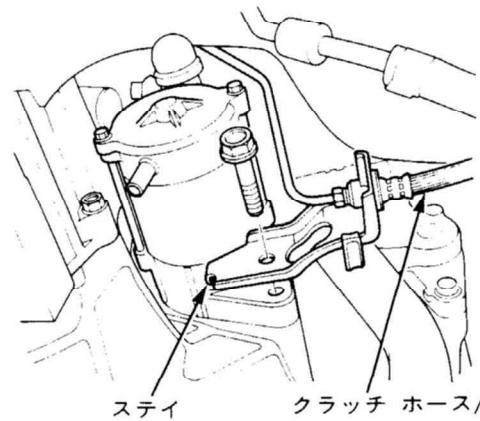
- ・アジャスト ナットはゆるめないでロックナットをゆるめる。
- ・スロットル ケーブルの取外し、取付けの際は、異常な曲がりが発生しないように注意する。
- ・ケーブルに異常な曲がりがあれば新品と交換する。

★取付け後は必ず調整を行う(6章参照)。

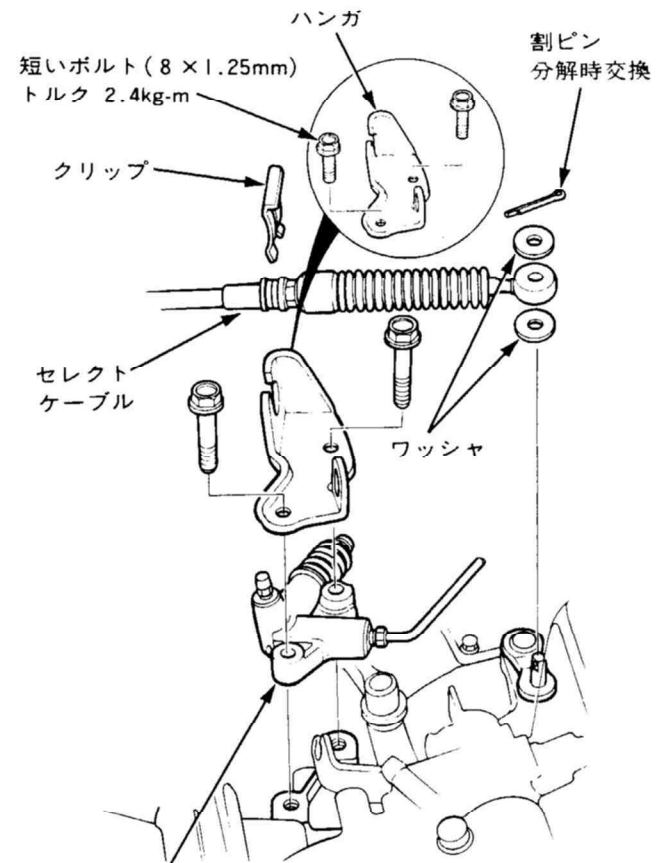


㉑ステイ ボルト(スタータ モータと共締め)を外して、クラッチ ホース/パイプをステイごとフリーにしておく。

★エンジン下側から作業し、ホースとパイプの接続は外さない。



㉒トランスミッションのセレクト ケーブルを外し、ハンガを取外してクラッチ スレブ シリンダを取外す。再びトランスミッションにハンガを取付ける。

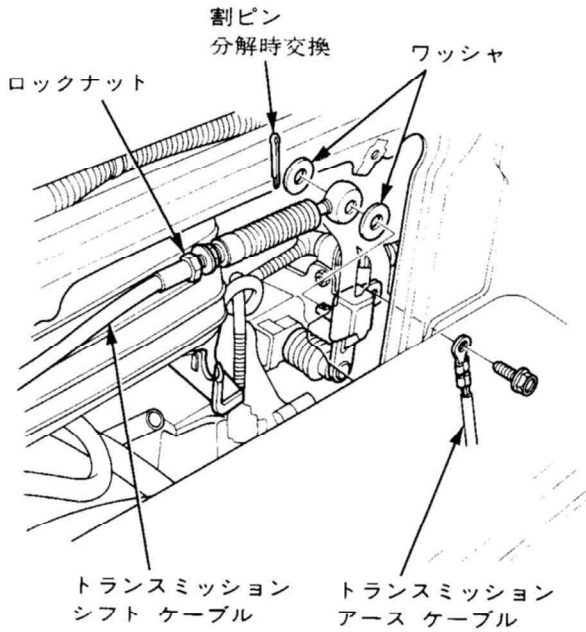


クラッチ スレブ シリンダ

★パイプを外さないで、スレブ シリンダ/パイプ/ホース Assy. でじゃまにならない場所におく。

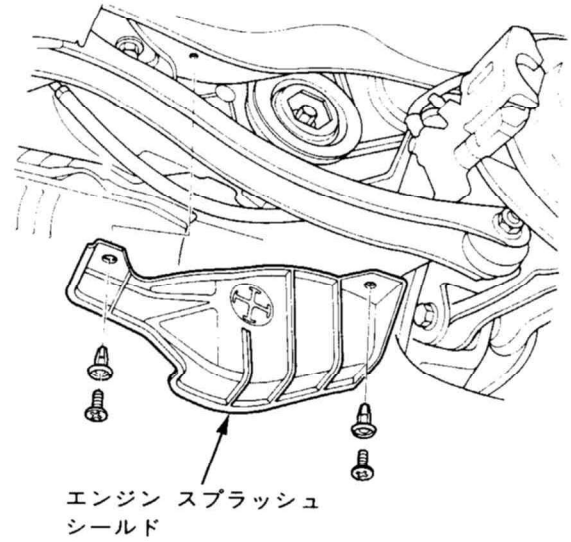
エンジン脱着

⑳ トランスミッションのシフト ケーブルを取外し、トランスミッション アース ケーブルを取外す。



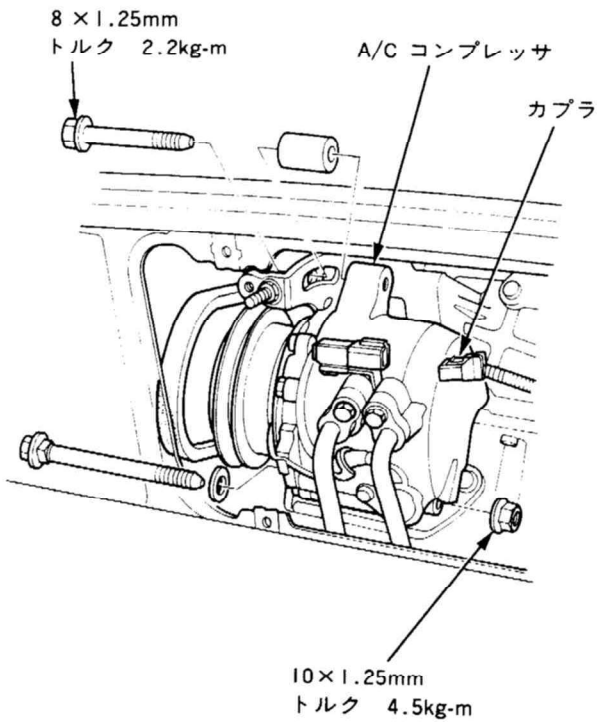
㉕ ボディをリフト アップして、エンジン下側からの作業を行う。

㉖ エンジン スプラッシュ シールドを取外す。

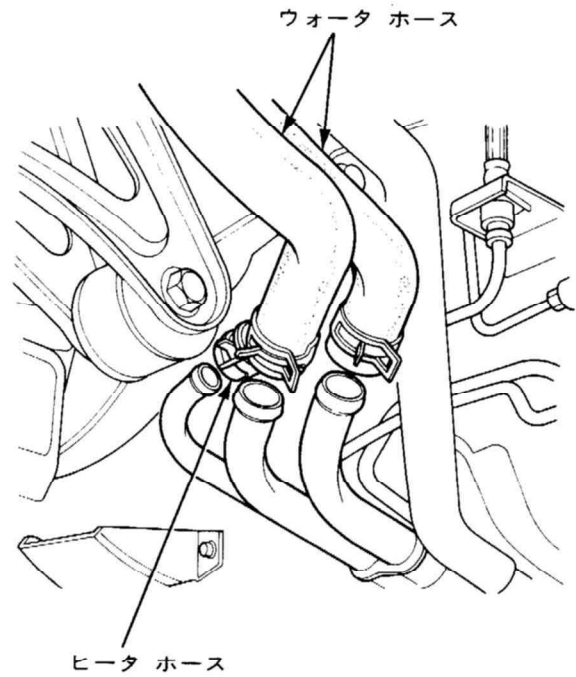


㉗ A/Cベルトを外し、カプラを外してA/C コンプレッサを取外す。

・ A/C パイプを接続した状態で外す。

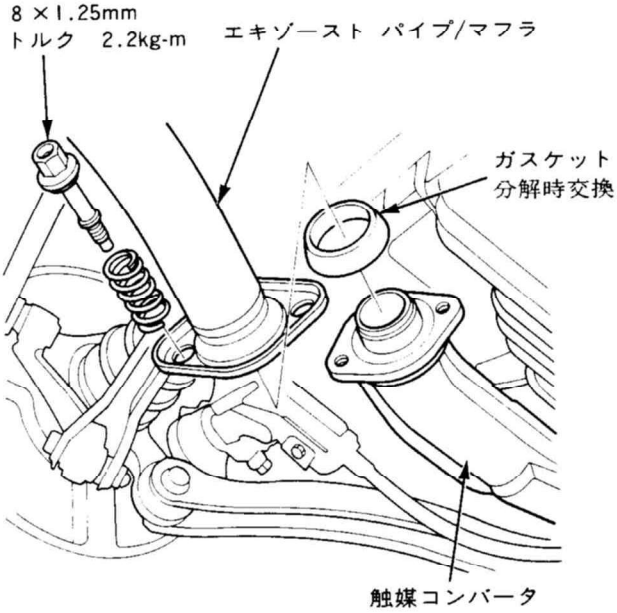


㉘ ウォータ ホース2本とヒータ ホース1本を外す。



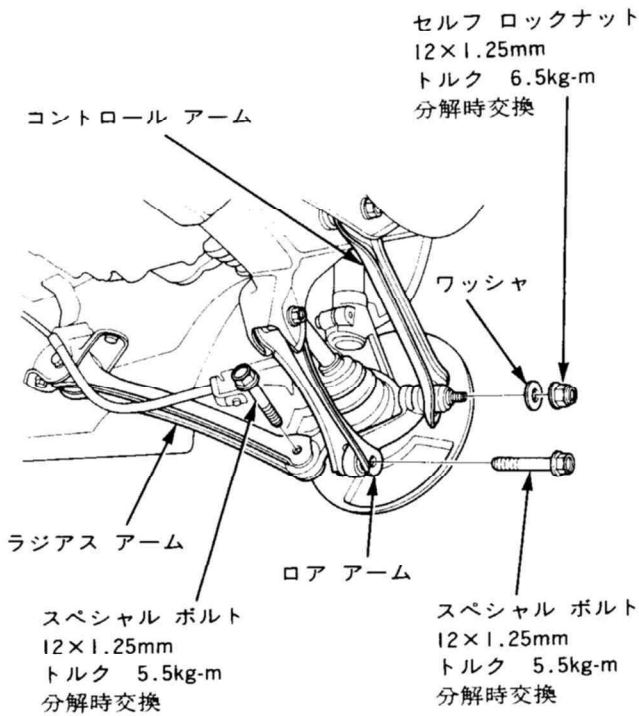
⑳ 触媒コンバータとエキゾーストパイプの接続を外す。

㉑ 排気温度センサ カプラを外す。



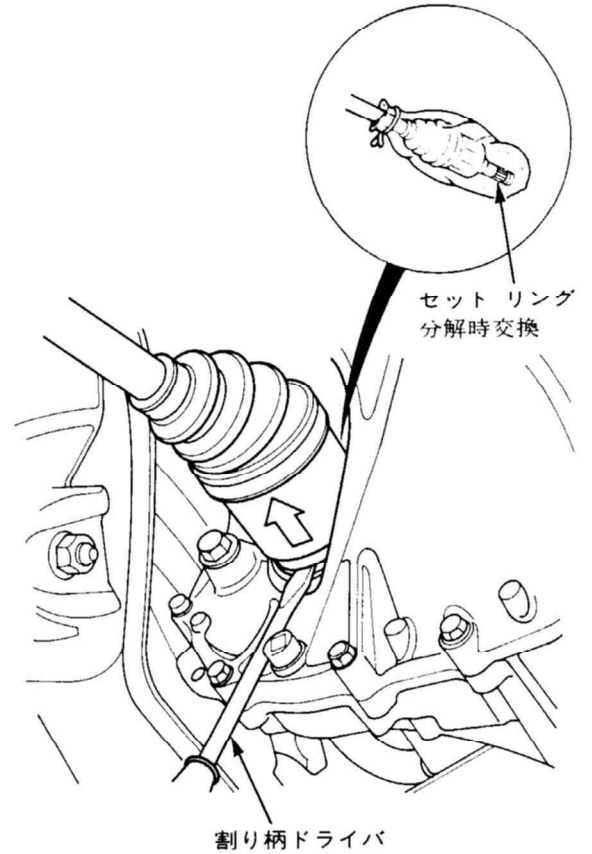
㉒ リヤサスペンションアームとホイールハブの接続を外す。

*取付け後にホイールアライメントを点検する(12章参照)。



㉓ ドライブシャフトを取外す(10章参照)。

*ドライブシャフトのスプライン部は、防錆、防じんのため、オイルまたはグリースを塗布し、ビニールなどに包んでおく。

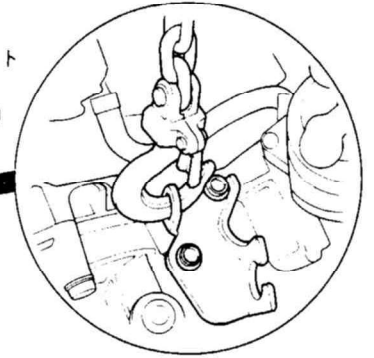
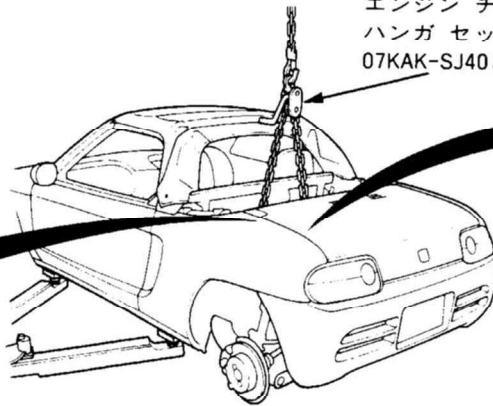
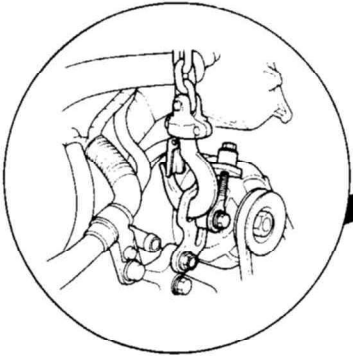


エンジン脱着

③②専用工具のエンジン チルト ハンガ セットを図のように掛け、門型クレーン等を使用してエンジン Assy.を吊る。

専用工具

エンジン チルト
ハンガ セット
07KAK-SJ40100



③③フロントのトルク ロッド ボルトを取外す。

③④L.サイドのエンジン サイド マウント ボルト/ナットを取外す。

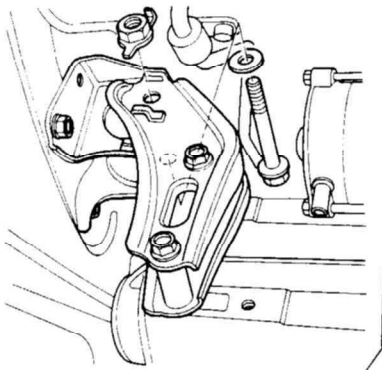
③⑤R.サイドのトランスミッション マウント ボルトを取外す。

③⑥リヤ マウント ボルトを取外す。

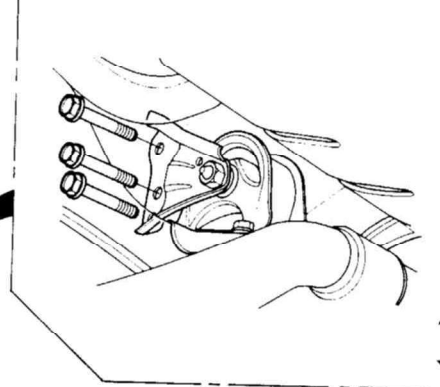
③⑦エンジン Assy.を数センチ下げ、ケーブル、ワイヤハーネス、ホース、チューブ等が外れていることを確認する。

③⑧エンジン Assy.をゆっくりと降ろし、キャスタ付きの台車の上に乗せ、ボディをリフト アップしてエンジン Assy.を引き出す。

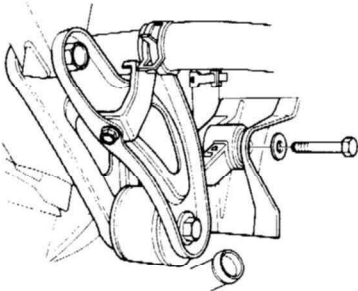
R.サイド：トランスミッション
マウント



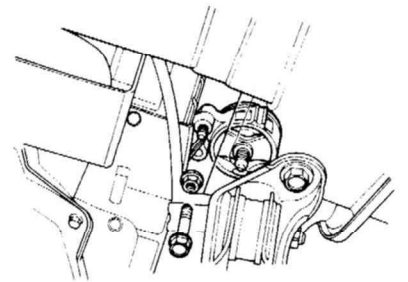
リヤ マウント



フロント トルク ロッド



L.サイド：エンジン サイド
マウント

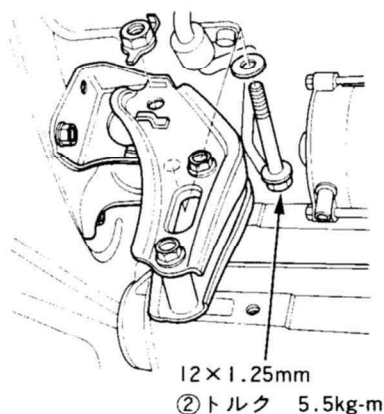


エンジン マウント関連ボルトの締付け手順

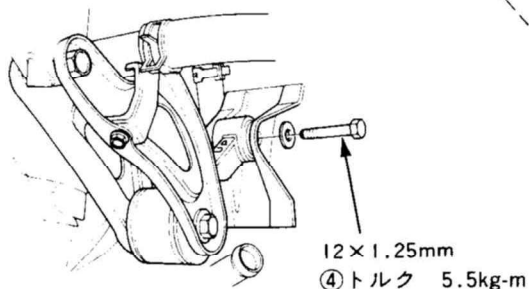
注意 エンジン マウント関連ボルトを締付ける際は音、振動防止およびブッシュ耐久性維持のため下記の手順で行うこと。

★各マウントに偏心こじりのないように注意する。

R.サイド：トランスミッション マウント



フロント トルク ロッド



12×1.25mm
①トルク 6.5kg-m

リヤ マウント ブラケット

L.サイド：エンジン サイド マウント

10×1.25mm
③トルク 4.5kg-m

エンジン取付け

①取付けは取外しの逆手順で行う。

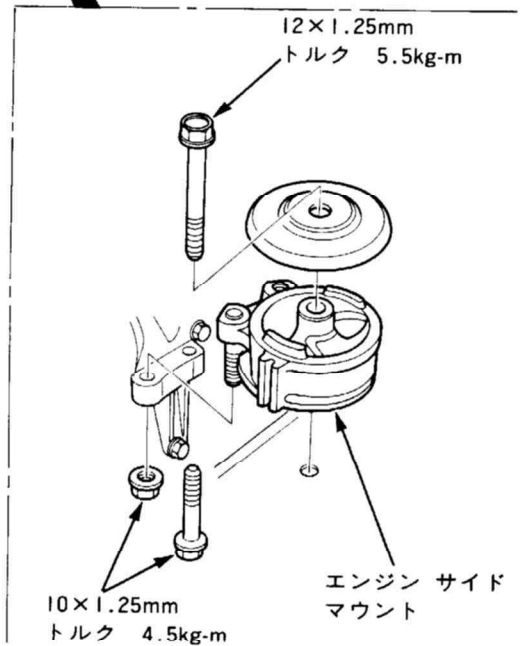
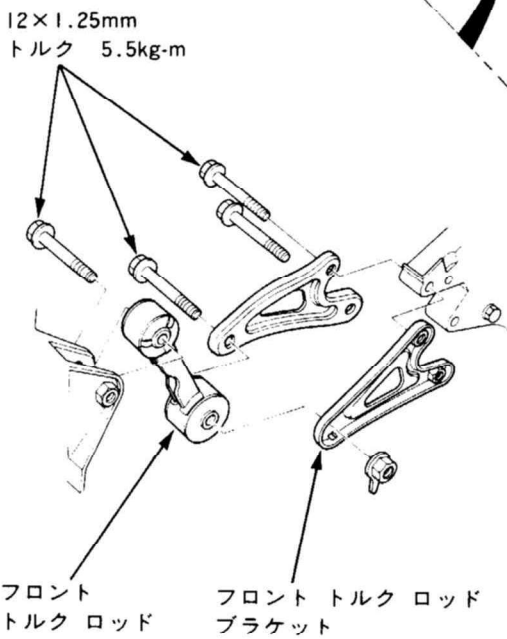
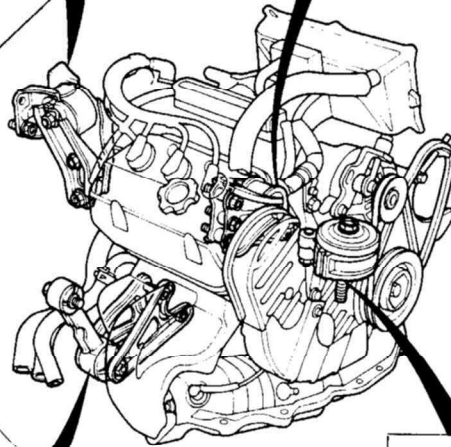
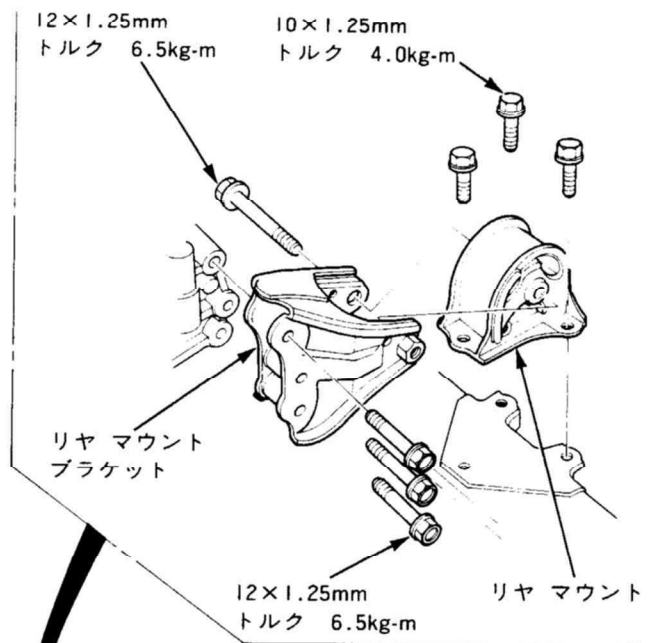
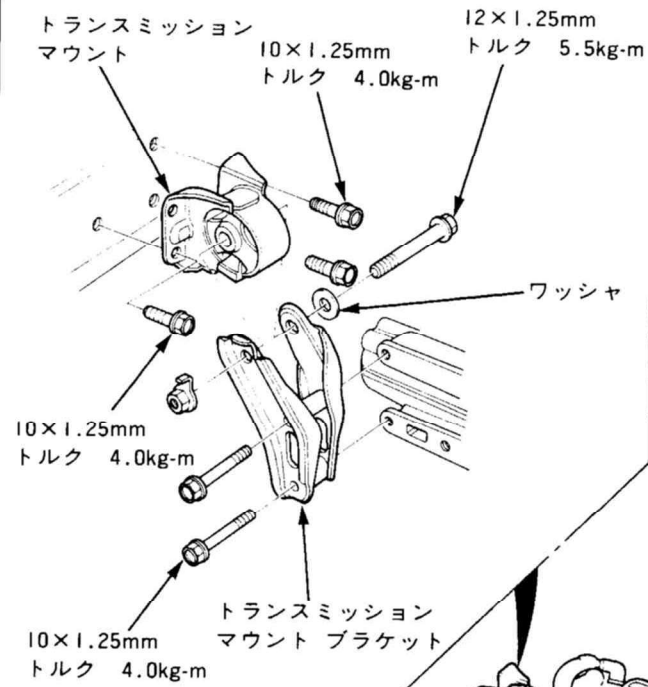
②取付け後、次の点検、調整、確認を行う。

- 1) ドライブシャフトをオイルシールのリップに傷をつけないように挿入し、先端のクリップが完全にデファレンシャルギヤの溝に入っているかを確認する(10章参照)。
- 2) スロットルワイヤの張りを調整する(6章参照)。
- 3) トランスミッション関係(8章参照)
 - ・クラッチの遊び、切れ等を確認する。
 - ・チェンジをシフトさせ、各ギヤの噛合いをチェンジレバーで確認する。

- 4) エンジンオイルを注入し、各部からオイル漏れのないことを確認する(5—5頁)。
- 5) 冷却水を注入しエア抜きを行う(5—54頁)。
- 6) エンジンを始動し各排気制御装置類や補器などは正常に機能が働いているかを確認する。
- 7) 点火時期の調整を行う(5—17頁)。
- 8) A/C装備車は真空引き、冷媒の封入、性能テストを行う(15章参照)。
- 9) リヤサスペンションのアライメントが正常であることを確認する(12章参照)。

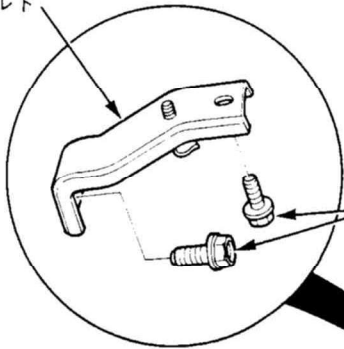
エンジン脱着

各マウントのトルク スペック :



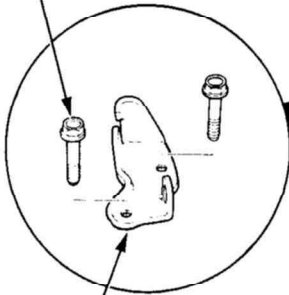
各ブラケット、ステイ、ハンガ ボルト
のトルク スペック：

IN マニホールド
ステイ



8 × 1.25mm
トルク 2.4kg-m

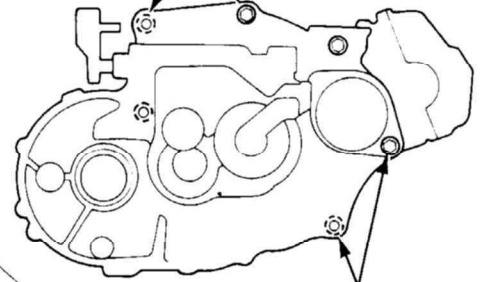
8 × 1.25mm
トルク 2.4kg-m



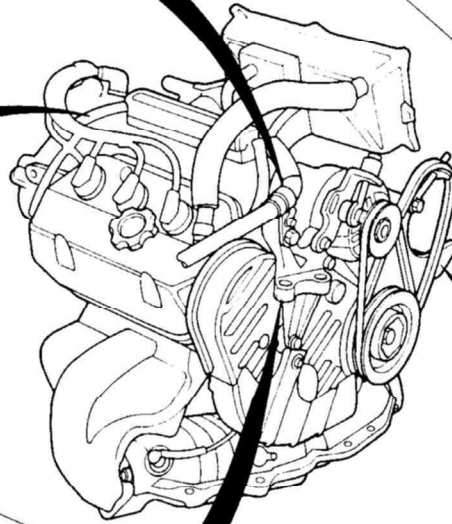
トランスミッション ハンガ

エンジン/トランスミッション接続
ボルトのトルク スペック

12 × 1.25mm
トルク 4.5kg-m



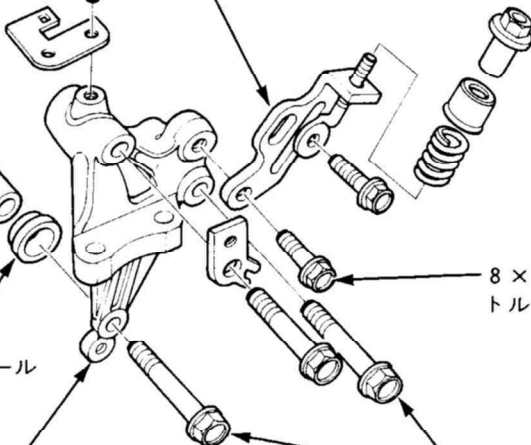
12 × 1.25mm
トルク 4.5kg-m



6 × 1.0mm
トルク 1.0kg-m

A.C.G アジャスト
ブラケット

カラー



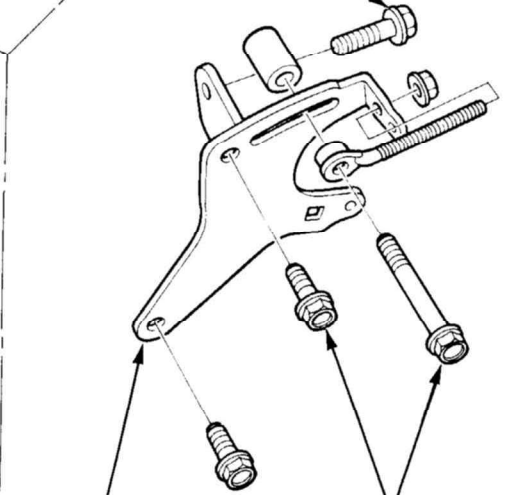
ラバー シール

エンジン サイド
マウント ブラケット

8 × 1.25mm
トルク 2.4kg-m

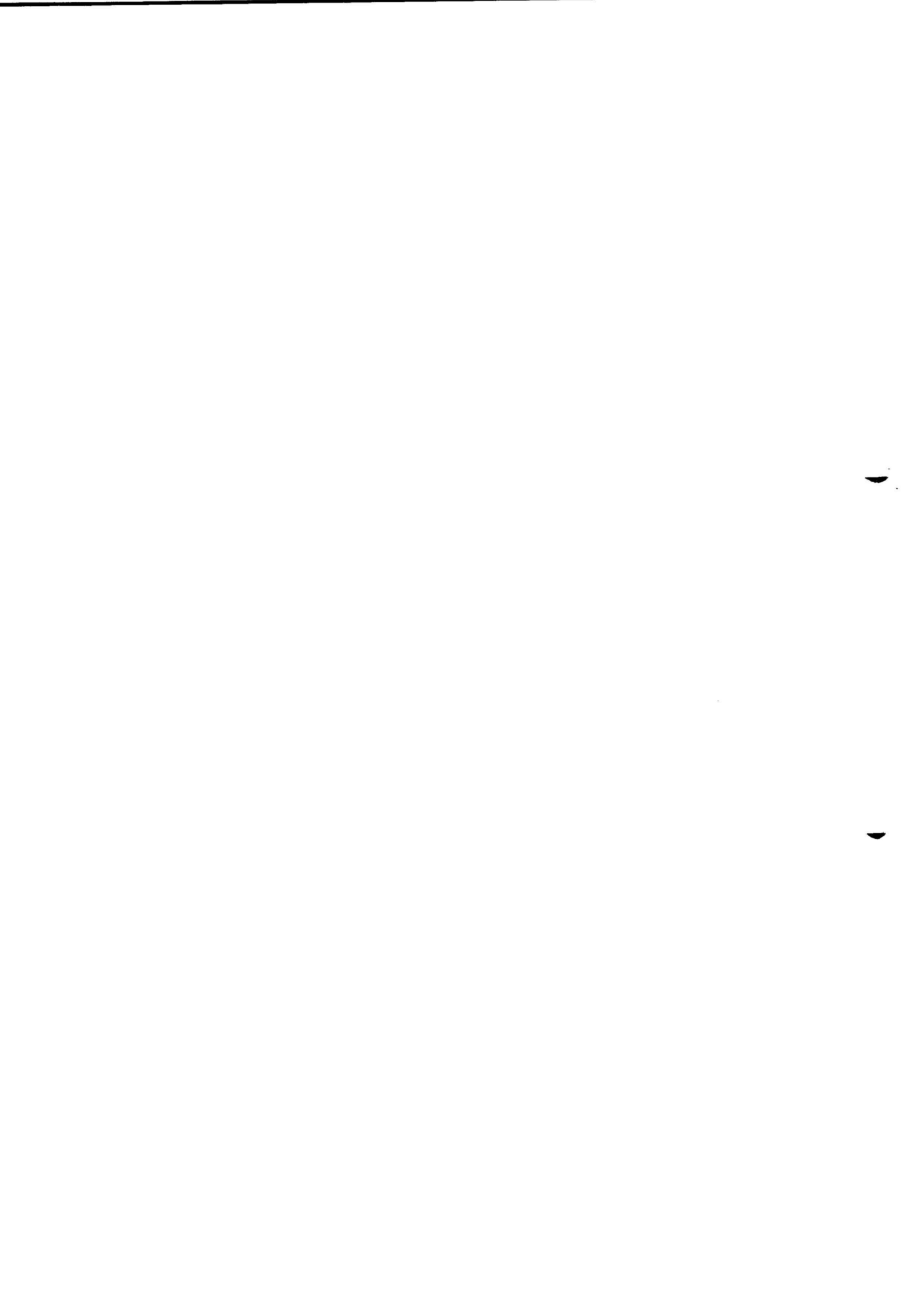
10 × 1.25mm
トルク 4.5kg-m

10 × 1.25mm
トルク 4.5kg-m



A/C コンプレッサ
ブラケット

10 × 1.25mm
トルク 4.5kg-m

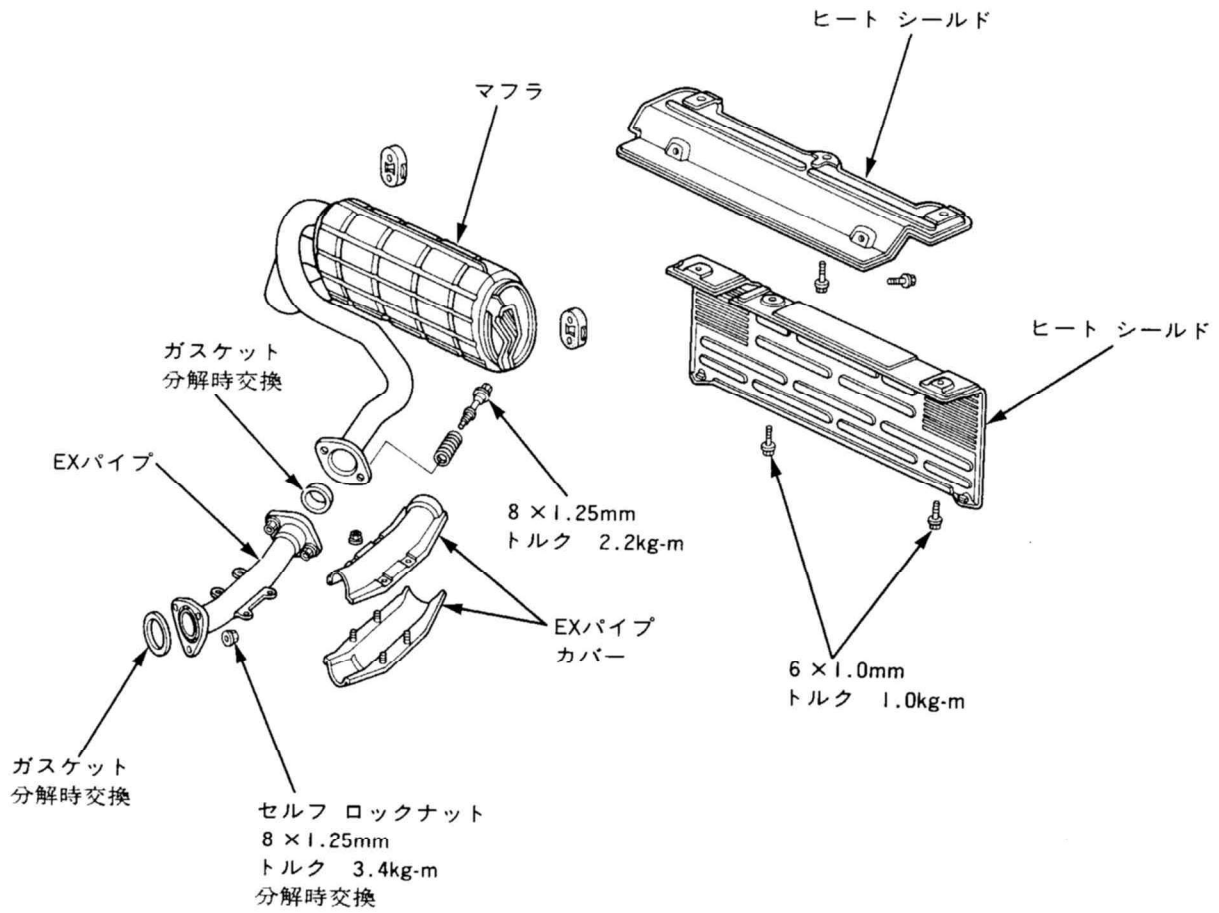


エキゾースト パイプ、マフラ

エキゾースト パイプ、マフラ

交換

★セルフ ロックナットおよびガスケットは、分解時に必ず新品を使用する。



ラジエータ

展開図	5-52
交換	5-53
冷却水交換	5-54
エキスパンション タンク キャップの点検	5-55
冷却水漏れの点検	5-55
サーモスタットの交換	5-56
サーモスタットの点検	5-56
ウォータ ポンプの点検	5-57
ウォータ ポンプの交換	5-57

ラジエータ

展開図

注意 水温が高いときキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっているため冷却水が吹き出し危険である。水温が下がってから布切れなどでキャップを包み、静かに開ける。

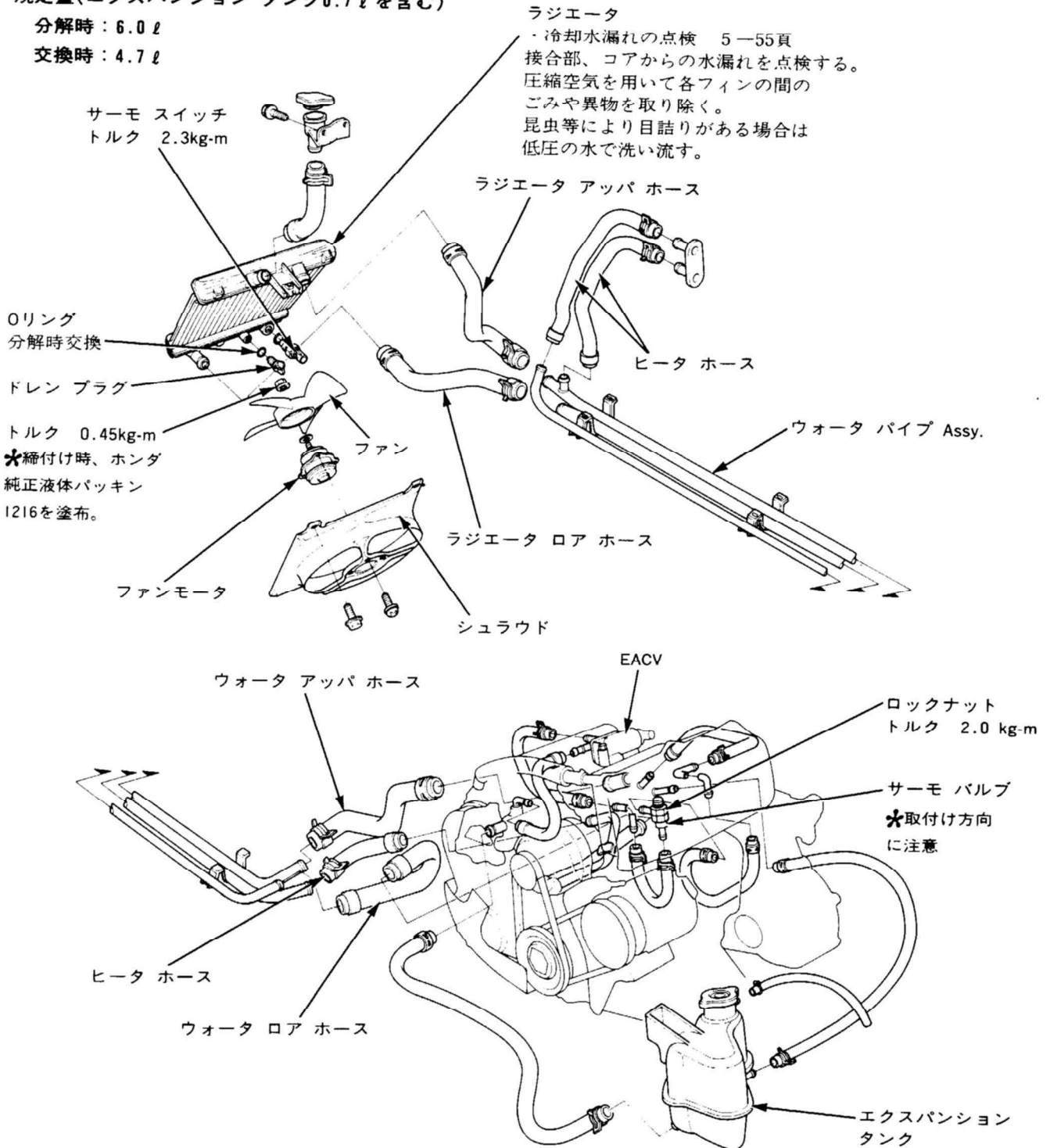
注意 冷却水を補給する際、リレーボックスのふたを必ず閉める。また、電装品、塗装面に付着させないようにする。付着させた場合は速やかに拭き取ること。

冷却水

指定液：ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液
 規定量(エクспанション タンク0.7ℓを含む)

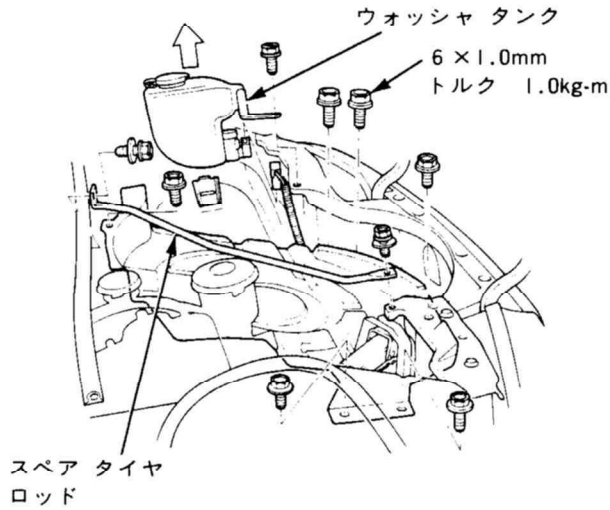
分解時：6.0ℓ

交換時：4.7ℓ

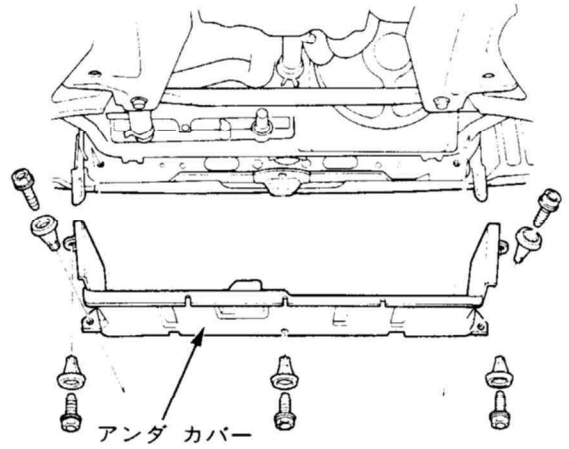


交換

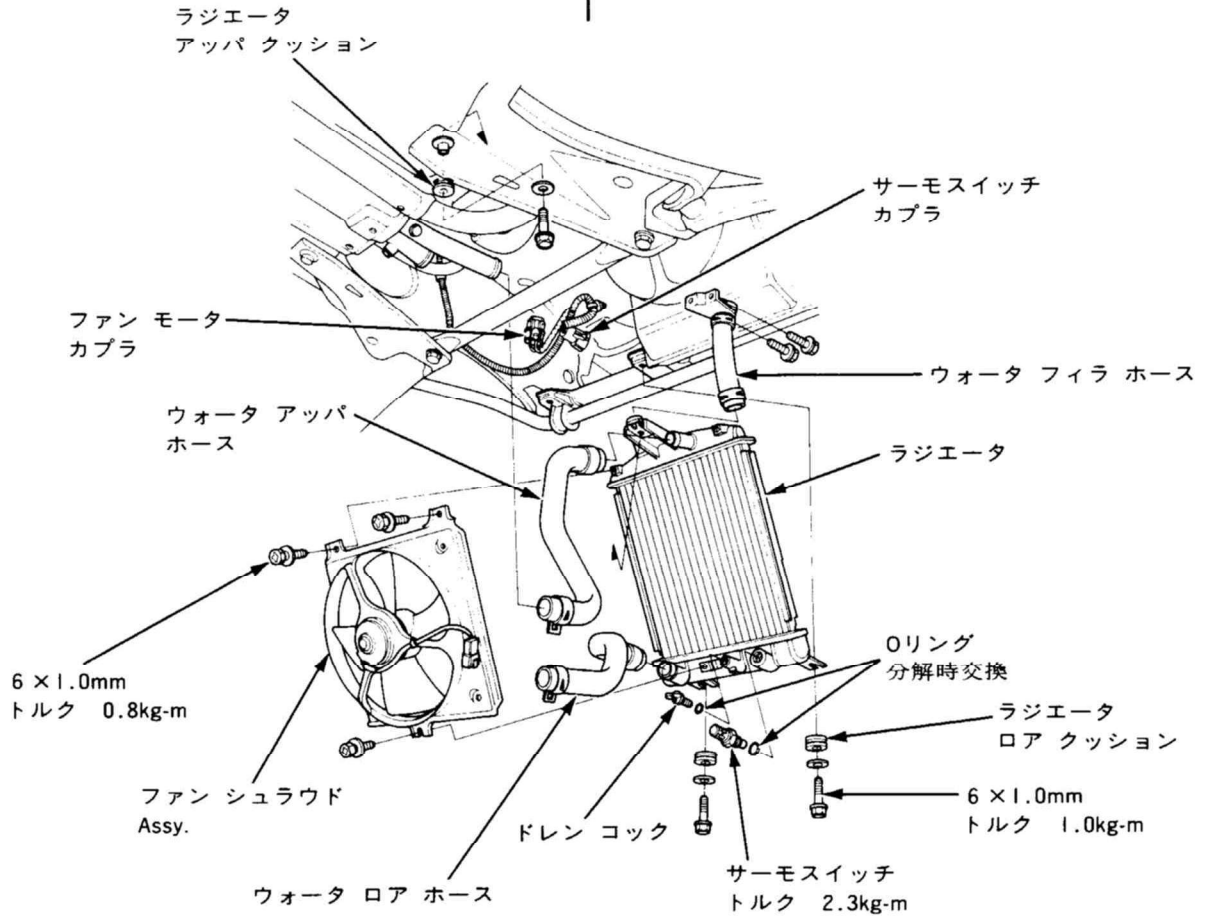
- ①冷却水を抜く(5-54頁)。
- ②ボンネットを開け、スペアタイヤを取外す。
- ③カブラ、チューブを外してウォッシュタンクを取外す。
- ④スペアタイヤロッドを外し、スペアタイヤフロアパンを外して、ラジエータフィラを取外す。



- ⑤フロントアンダカバーを取外す。



- ⑥ラジエータマウントボルトを外し、アッパ、ロアのラジエータホースを外す。
 - ⑦ファンモータとサーモスイッチのカブラを外して、ラジエータ Assy. を下側に取外す。
- ★取付けは取外しの逆手順で行うが、アッパ、ロアのクッションを確実に取付ける。



冷却水

冷却水交換

推奨交換時期	2年ごと (第1回目3年)
冷却水規定量 (エキスパンションタンク0.7ℓを含む)	4.7ℓ
指定液	ホンダ純正ウルトララジエータ液
規定濃度	50%

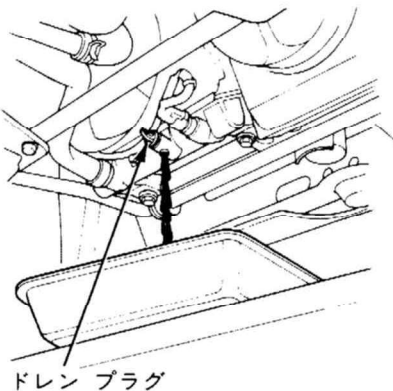
注意

- ・他銘柄との混合はさけること。
- ・毒性があるから絶対に飲用しないこと。
- ・指定以外のラジエータ液や不適当な水を使用すると、錆などの原因となる。
- ・ホンダ純正ウルトララジエータ液の濃度を規定以上に薄めない。
防錆力が低下し錆などの原因になる。
- ・ラジエータ液の原液を規定濃度に薄めるときは、上水道(軟水)を使用する。
- ・冷却水を交換する際、リレーボックスのふたを必ず閉める。また、電装品、塗装面に付着させると塗装表面をいためるので、万一付着した場合は速やかに水洗する。
- ★ 交換する前に、エアコンディショナの温度調節ダイヤルをHOT側にする。
 - ・エンジンが冷えてから行う。
 - ・水平の場所で行う。

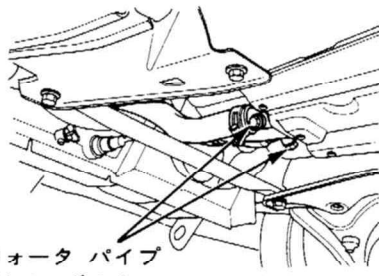
冷却水の排出

- ①トランクを開け、エキスパンションタンクキャップをゆるめて、圧力を下げ、キャップを取外す。

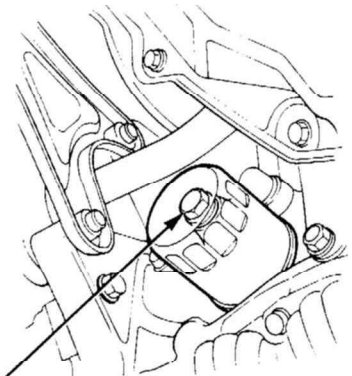
注意 水温が高い時ラジエータキャップおよびエキスパンションタンクキャップを外すと、冷却水に圧力がかかっているため冷却水が吹き出し危険



ドレンプラグ



ウォータパイプ
ドレンボルト
トルク 1.8kg-m



エンジンドレンボルト
トルク 4.0kg-m

である。水温が下がってから布切れなどでキャップを包み、静かに開ける。

- ②ラジエータのドレンプラグをゆるめて冷却水を抜く。
- ③エキスパンションタンクの水が無くなったことを確認し、ボンネットを開け、ラジエータフィラキャップを外す。
- ④アンダフロアのウォータパイプのドレンボルトを2個外し冷却水を抜く。
- ⑤エンジンブロックのドレンボルトを外し冷却水を抜く。
- ⑥冷却水が十分に抜けたら、ラジエータのドレンプラグ、ウォータパイプのドレンボルト2個およびエンジンのドレンボルトを締め付ける。

★ドレンボルトのワッシャは全て新品を使用する。

冷却水の注入

- ⑦新しい指定冷却水をラジエータフィラより注入する(この時エキスパンションタンクキャップを開けておく)。
- ⑧ラジエータフィラネックまで冷却水がいっぱいになったらキャップを締め付ける。
- ⑨エキスパンションタンクのMAXレベルまで冷却水を注入する。
- ⑩エキスパンションタンクキャップを取付け、キャップを約60°右に回す(フィラネックのロック山を一山越えた位置)。
- ⑪エンジンを暖機運転(サーモスタットが開き、ラジエータファンが2回作動するまで)し、エキスパンションタンクの水面がMAXとMINの間にあることを確認する。もし、レベル以下の場合は、MAXまで補充する。
- ⑫エキスパンションタンクキャップを完全に締め付ける。

エクспанション タンク

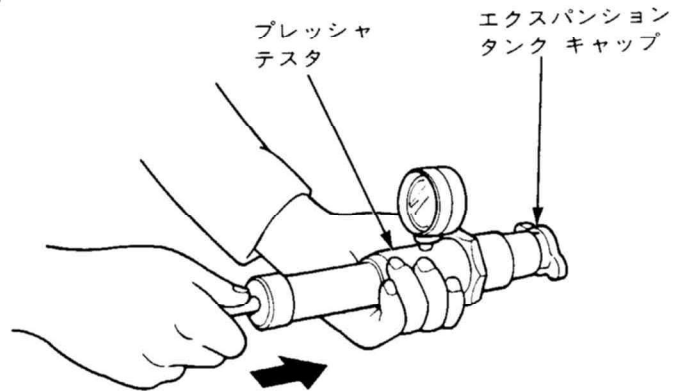
キャップの点検

注意 水温が高いときキャップを外すと、冷却水には圧力がかかっているため冷却水が吹き出し危険である。水温が下がってから静かに開ける。

①プレッシャ テスタにキャップを取付け、ポンプアップし、正規圧力(キャップ開弁圧)の範囲に約6秒間保てばよい。

注意 テスタにキャップを取付ける際は、シール面によく水を塗っておくこと。

正規圧力 0.75—1.05kg-cm²



冷却水漏れの点検

*点検はエンジンが冷えている時に行う。

①冷却水をMAXレベルまで補充する。

②エクспанション タンク キャップ口にプレッシャ テスタを取付ける。

③テストで正規圧力値までポンプアップして水漏れの有無を確認する。

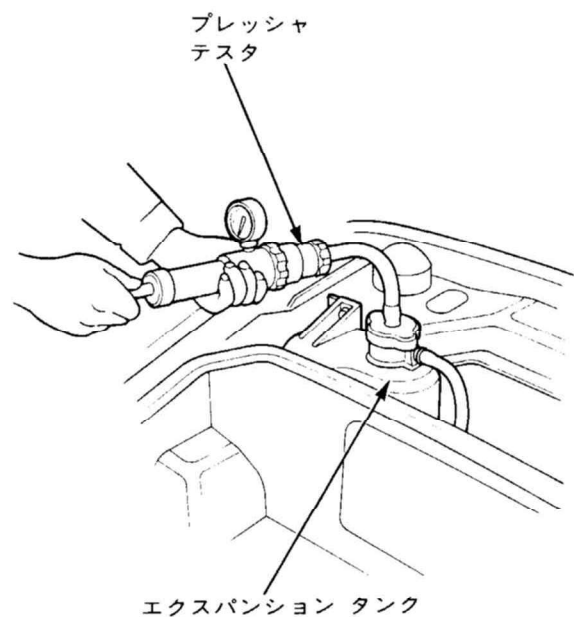
正規圧力 0.75—1.05kg-cm²

注意 エクспанション タンクにテストを取付ける際は、シール面によく水を塗っておくこと。

* 短時間で圧力が低下する場合は、テストの取付けが悪い場合水漏れしている。

・エンジン オイルと冷却水とのまじりがないことを点検する。

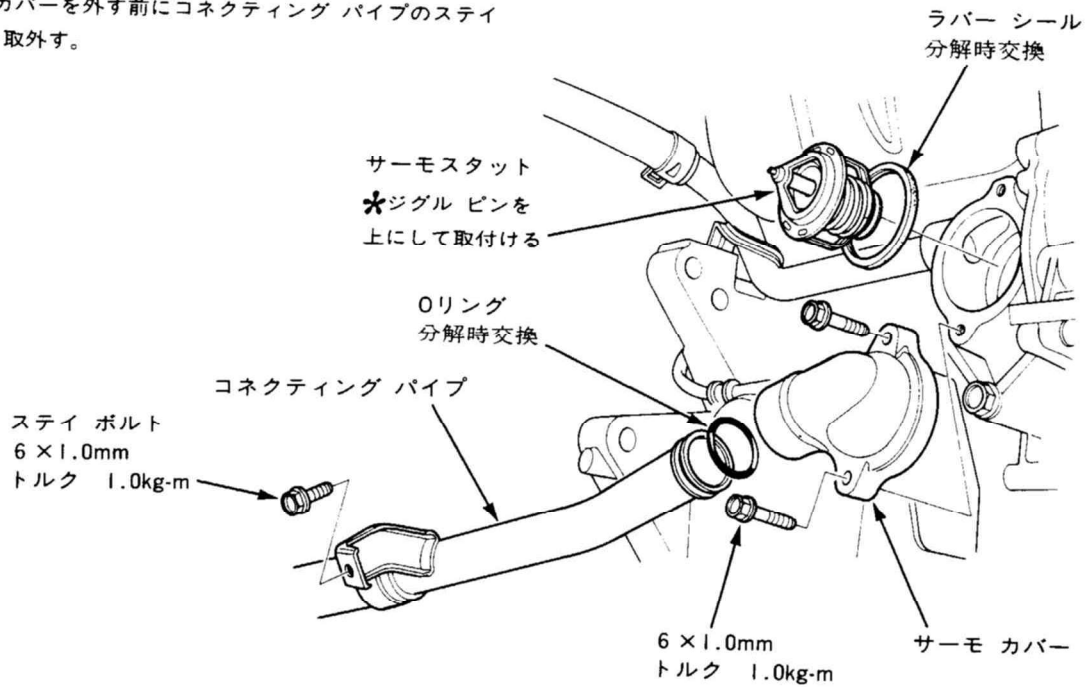
→ オイルがまじっている場合はエンジンのシール不良。



サーモスタット

交換

- ★・Oリング、ラバーシールは分解時に必ず新品を使用する。
- ・サーモカバーを外す前にコネクティングパイプのステイボルトを取外す。



点検

- ①サーモスタットを水中に入れる。
- ②水を熱し、水温を徐々に上げて開弁温度をテストする。

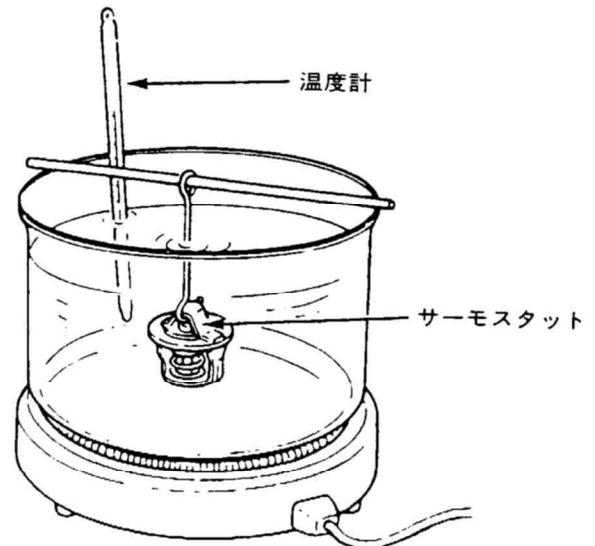
注意

- ・サーモスタットが常温で少しでも開弁しているときは交換する。
- ・サーモスタットは感知部の表面積が小さく時間的に遅れがあるので93℃前後に約5分間保って開弁リフトを測定する。

★サーモスタットを容器の底に直接つかないようにする。

サーモスタット

開き始め温度 (0.35mmリフト時)	76-79℃
全開時温度	87.5℃
全開時リフト	8mm以上

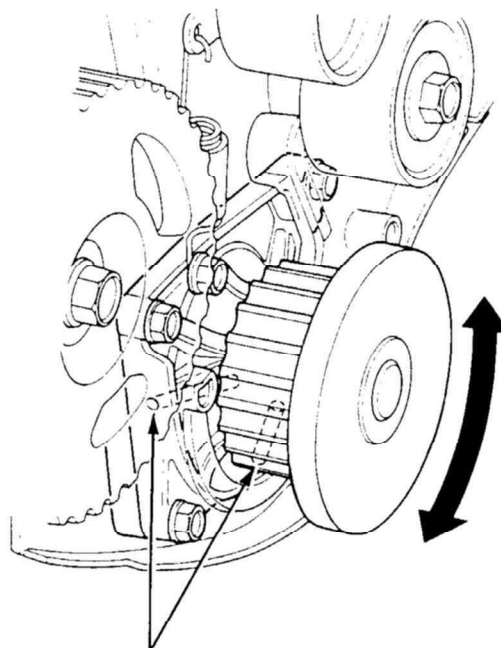


ウォータ ポンプ

点検

- ① タイミング ベルトを取外す(5-23頁)。
- ② ウォータ ポンプのプーリがスムーズに回転することを確認する。
- ③ ウォータ ポンプからの漏水が無いこと確認する。

注意 ブリード ホールから少量の水が出る場合があるが異常ではない。

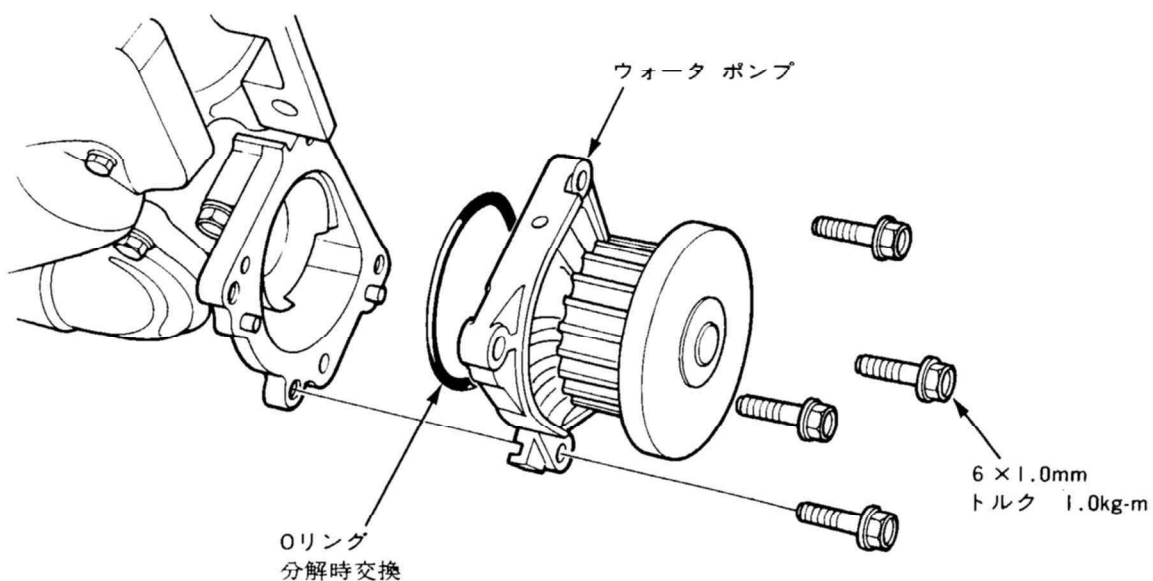


ブリード ホール

交換

- ① タイミング ベルトを取外す(5-23頁)。
- ② タイミング ベルトのアイドル プーリを取外す。
- ③ タイミング ベルト バック カバーを取外す。
- ④ ボルト 4 本を外し、ウォータ ポンプを交換する。

⑤ 取付けは取外しの逆手順で行う。



サーモバルブ

交換

注意

- ・パーキング ブレーキを掛け、車輪止めを使用する。
- ・フューエル フィード ホースの取外しは、必ずフューエル フィルタ上部のサービス ボルトをゆるめ燃圧を抜いてから行う(6章参照)。
- ・水温が高い時エクспанション タンク キャップを外すと、冷却水に圧力がかかっているため冷却水が吹き出し危険である。水温が下がってから布切れ等でキャップを包み、静かに開ける。

注意

- ・配線を取外す時は断線しないようにカプラ、コネクタを持って静かに外す。
 - ・配線や、チューブ類を取付ける時は、誤って接続しないように注意する。また、コード、チューブ類の噛み込みや他の部との干渉がないようにする。
 - ・冷却水を電装品や塗装面に付着させないようにする。付着させた場合は速やかに拭き取る。
- ①トランクを開け、バッテリー ターミナル⊖⊕を外す。

注意

- ・バッテリー ターミナルを外す時は、必ず⊖側を先に外す。
- ・取付ける時は、バッテリー ターミナルの接続部をサンドペーパー等で磨いた後取付け、周囲にグリースを塗布する。

- ②エクспанション タンク キャップを外す。

注意 水温が高い時には注意。

- ③冷却水を抜く(5-54頁)。

- ④メンテナンス リッドを外し、エア クリーナ カバー、エレメントを取外す(5-8頁)。

- ⑤ソフト トップをゆるめ、エンジン ルーム カバーを外す(14章参照)。

- ⑥フューエル フィルタ上部のサービス ボルトをゆるめて燃圧を抜く(6章参照)。

注意

- ・火気厳禁
- ・燃圧を抜く時はウエス等で覆い、ガソリンが飛び散らないようにする。

- ⑦フューエル フィード ホース、リターン ホースを外す。

- ⑧エア クリーナ ケースのステイ ボルトを外す。内側からボルト 4本を外し、スロットル ボディを取外す。

- ⑨スロットル ボディの下側にあるサーモバルブからウォータ バイパス ホースを外し、ロックナットをゆるめてサーモバルブを取外し交換する。

- ⑩取付けは取外しの逆手順で行うが、次の項目に注意する。

- ・サーモバルブを取付ける時は、一番奥まで締め付けインポート側の水平パイプを図の方向(シリンダ側へ向ける)にセットし、ロックナットを締め付ける。

- ・パッキン類は必ず新品を使用する。

